

平成25年度

病 院 年 報



珠洲市総合病院

病 院 理 念

“市民の心の支えとなる地域の中核病院に”

1. 疾病の予防から在宅医療までの一環した体制の確立を目指します。
1. 安心と信頼の地域医療を目指します。
1. いたわりの心で皆様の健康と命を守ります。

基 本 方 針

私たちは、市民に信頼され、期待される病院であり続けるために、次のことに努めます。

1. 地域の人々に適切な医療を提供し、併せて健康の増進に努めます。
1. 医師をはじめ医療技術者等の研鑽を重ね、加えて研修・実習を担当し、技術の向上、医療水準の向上発展に努めます。
1. 地域の医療機関等との連携を図り、地域に不足している分野の強化推進と、地域における役割分担を認識した、医療提供に努めます。
1. 患者さん中心の医療を堅持し、患者サービスの向上を図り、地域の人々に、信頼され、地域への貢献に努めます。
1. 患者さんの権利の尊重とプライバシー保護を遵守し、看護の継続性の充実に努めます。
1. 患者さんが快適な環境で治療に専念でき、また職員が希望をもって働ける明るい病院とし、併せて経営の健全化に努めます。
1. 病院全体に静かで明るい雰囲気、文化の香り豊かな病院づくりに努めます。

目 次

第1章 病院の沿革及び現況

1. 病院の沿革	1
2. 病院の概要	5
3. 職員の現況	7
4. 病院組織機構図	8

第2章 決算の概要

1. 収益費用明細書	9
2. 資本的収入及び支出	12
3. 貸借対照表	13

第3章 業務の概要

1. 患者の状況	14
(1) 入院・外来別患者数	14
(2) 外来初診患者数	15
(3) 平均在院日数	16
(4) 病床利用率	16
(5) 休日及び時間外救急取り扱い患者数	17
(6) 救急隊別患者搬入取り扱い件数	19
(7) 科別救急車搬入取り扱い件数	20
2. 紹介患者数の状況	21
(1) 地域別紹介件数	21
(2) 自院からの紹介科室別内訳	21
(3) 他院からの紹介科室別内訳	22
3. 手術の状況	23
4. 在宅医療及び介護認定の状況	24
(1) 訪問診察・往診件数	24
(2) 科別利用者及び経管栄養・経口者件数	24
(3) 訪問看護件数	24
(4) 主治医意見書作成件数	24
(5) 訪問リハビリ件数	24
(6) 認定調査件数	24

5. リハビリテーションの状況	25
6. 放射線の状況	27
(1) 撮影件数	27
7. 分娩の状況	29
(1) 分娩の状況	29
(2) 分娩集計	30
8. 給食及び栄養指導の状況	33
(1) 患者給食数	33
(2) 栄養指導数	33
(3) 平均残食率	33
9. 医療相談の状況	34
(1) 医療相談の状況	34
(2) 医療相談状況内容	34
10. 臨床検査の状況	36
11. 内視鏡検査の状況	38
12. 健診及び人間ドックの状況	39
13. 人工透析の状況	40
14. 薬剤部の状況	41

第1章 病院の沿革及び現況

1. 病院の沿革

昭和 25 年	10 月 6 日	珠洲郡飯田町外 10 ヶ町村厚生医療組合立珠洲郡中央病院として開院 病院の名称／珠洲郡中央病院 病床数／一般 30、伝染病 15
昭和 27 年	3 月	伝染病棟新築 病床数／一般 60、伝染病 20、結核 15
昭和 29 年	7 月	結核病棟新築 病床数／一般 60、伝染病 20、結核 40
昭和 30 年	7 月	構成町村の統廃合により、珠洲市外一町厚生医療組合立珠洲郡中央病院となる
昭和 35 年	4 月	珠洲郡中央病院は珠洲市に帰属し名称を「珠洲市国民健康保険中央病院」と改称し、珠洲市営病院として発足
昭和 35・36 年度		病院改築第 1 期事業として病棟改築 病床数／一般 92、結核 40
昭和 37 年	5 月	「基準看護」承認 基準給食承認
	8 月	基準寝具承認
昭和 38・39 年度		病院改築第 2 期事業として診療及び管理棟新築
昭和 39 年	6 月	救急告示病院指定
昭和 42 年	9 月	総合病院の指定承認・病院の名称を「国民健康保険珠洲市総合病院」と改める 病床数／一般 100、結核 40 診療科目／内科、外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科
	10 月	整形外科開設
	12 月	基準看護「一類看護」承認
昭和 45 年	4 月	小児科開設
昭和 49・50 年度		結核病棟を改築し、一般病床の増床とリハビリテーション部門開設 病床数／一般 125、結核 15
昭和 50 年	6 月	基準看護「特一類看護」承認
昭和 51 年	3 月	病院改修工事施工 窓枠取替 冷房設備新設
昭和 53 年	4 月	労災指定病院指定
昭和 54 年	3 月	へき地中核病院指定 診療棟増築 へき地巡回診療開始／馬渡、大谷、折戸
昭和 56 年	1 月	脳神経外科及び皮膚科・泌尿器科を開設
	7 月	腎人工透析開始
昭和 58・59 年度		病棟増築・病院改修工事（内部改装）及び透析部門増築
昭和 59 年	5 月	増床許可 病床数／一般 175、結核 15 診療科目／内科、外科、小児科、眼科、産婦人科、整形外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科
	9 月	全身用 CT スキャナー設置
昭和 62 年	4 月	眼科医師常勤開設
	7 月	へき地巡回診療地域の変更（馬渡→上黒丸）
	9 月	病院運営協議会発足
昭和 63 年	2 月	作業療法施設基準承認
	4 月	耳鼻咽喉科常勤開設
	9 月	へき地巡回診療地域の変更（上黒丸中止）
	10 月	脳神経外科常勤開設
平成元年	9 月	脳神経外科専用病棟完成（改造工事） 看護単位の変更（3 単位→4 単位）
	12 月	大谷診療所移転新築（旧大谷診療所廃止）
平成 2 年	6 月	三崎診療所廃止（昭和 48 年 5 月以降休診）
	7 月	新大谷診療所開設

平成3年	4月	基準看護「特二類看護」承認
平成4年	4月	皮膚科開設
	8月	磁気共鳴断層撮影装置（MR I）設置
平成6年	4月	訪問看護室設置
	7月	基準病衣承認
平成7年	5月	新看護体系承認 一般病棟／新看護（A）2.5：1 結核病棟／新看護（A）4：1
平成8年	6月	医療相談室設置
平成9年	2月	災害拠点病院指定
	3月	新病院建設工事完成
	5月	新病院竣工式 結核医療機関の指定
	6月	名称を「珠洲市総合病院」として珠洲市野々江町ユ部1番地1で開院 病床数／199床（一般160、療養型32、結核7） 診療科目 10科→14科（神経内科、リハビリテーション科、精神科、放射線科を追加標榜） 院内にオーダーリングシステムの導入 処方・検査・給食・放射線オーダー等の導入 県内公立病院で初めて療養型病床群を新設 寝食分離による患者食堂（ダイルーム）設置（3箇所） R I（核医学診断装置）、泌尿器科用X線装置、血管造影装置等の導入
	11月	泌尿器科常勤開設
平成10年	9月	金沢医科大学附属病院より麻酔医派遣（毎週月曜日派遣）
平成11年	6月	外来診療に予約制を一部導入
	9月	財務会計・固定資産・物品管理電算システムを構築 駐車場新設工事施工（駐車台数92台可能）
	11月	介護保険施設指定（許可）申請（介護療養型医療施設 定員8人）
平成12年	1月	指定居宅介護支援事業者指定（許可）申請 （指定居宅サービスはみなし指定）
	3月	生活保護法指定介護機関指定申請
	4月	介護サービスの提供開始（医療保険と介護保険制度が確立）
平成13年	4月	リハビリテーション科に言語聴覚士採用
	8月	病床種別の届出（一般160、療養32、結核7）
	9月	術中病理画像伝送装置（テレパソロジー）設置 金沢大学医学部病理学教室へ診断依頼 周産期母子医療支援システムの導入
	11月	健診科開設・健診システムの導入
平成14年	4月	週休二日制の試行開始（完全土曜日閉院） 皮膚科常勤開設
	7月	神経内科の休止
平成15年	1月	能登北部の病院における診療を支援するための相互応援体制に関する覚書締結
	4月	へき地医療拠点病院に指定 泌尿器科の診療が毎週2回（火曜・金曜日）に変更
	5月	医療相談窓口コーナーの設置（ソーシャルワーカーの常駐）
平成16年	1月	院内完全禁煙実施（喫煙コーナーの設置・分煙機の撤去）
	3月	金沢大学附属病院臨床研修病院指定（協力型臨床研修施設）
	4月	泌尿器科の診療が隔週火曜日のみに変更
	12月	新医療情報システムを構築して運用開始 個人情報保護推進委員会を組織する

平成 17 年	4 月	個人情報保護法が施行される	
	5 月	市民ボランティア活動開始（正面玄関前交通整理等）	
	10 月	金沢大学寄附講座「地域医療学講座」の開設 呼吸器外科の診療開始	
平成 18 年	4 月	地域医療連携室を開設、 外来窓口業務を全面委託化 泌尿器科の診療が週 1 回（月曜日）に変更 入院基本料届出 一般・結核病棟 13 対 1 看護補助加算届出 一般病棟 10 対 1	
	6 月	診療録管理委員会の組織を設置	
	7 月	船員法施行規則第 57 条第 4 号の規定に基づく医師として指定 石川県地域医療支援医師修学資金貸与事業の経費負担の協力締結 入院基本料届出 一般・結核病棟 10 対 1 施設基準届出 療養病棟 8 割未満	
	9 月	金沢医科大学病院臨床研修病院指定（協力型臨床研修施設） 遠隔放射線画像支援システムが稼動 金沢大学放射線科との送受信開始	
	11 月	遠隔画像診断の施設基準届出	
	平成 19 年	1 月	診療録管理規定・記録開示指針等の制定 障害者自立支援法第 54 条第 2 項の規定による指定自立支援 医療機関の指定（更正医療・育成医療）
		2 月	船員保険生活習慣病予防健診委託契約締結 公立宇出津総合病院と「医療連携・病院経営合同懇談会」 （第 1 回）の開催
		4 月	皮膚科の診療が週 3 回（月・水・木曜日）に変更（非常勤） 「糖尿病予防教室」と名称変更し開設（一般住民にも開放） 石川県看護師等修学資金貸与事業に要する経費負担の協定締結
		5 月	院内に自動体外式除細動器（AED）配置
		7 月	精神科の診療が毎週金曜日に変更 病院派遣型再就職支援事業の申出書提出
	平成 20 年	12 月	金沢大学寄附講座「地域医療学講座」研究結果報告
4 月		能登北部地域医療協議会の発足	
7 月		マルチスライス CT 装置を更新 能登脳卒中地域連携クリティカルパスに参加	
	10 月	石川県地域医療支援センターと石川県地域医療人材バンクの連携によ り、内科医が 1 名着任 日本眼科学会専門医制度研修施設の認定	
平成 21 年	1 月	会計システム（POS レジ）を導入	
	2 月	「珠洲市総合病院改革プラン」策定	
	4 月	眼科の診療が週 2 回（水・金曜日）の午後に変更（非常勤） 精神科の診療が週 2 回（水・金曜日）に変更	
平成 22 年	2 月	磁気共鳴画像診断装置（MR I）を更新	
	5 月	医師住宅 A 棟・B 棟を新築（野々江町地内）	
	9 月	検査室に自動分析装置を更新	
平成 23 年	3 月	医師住宅 C 棟を新築（野々江町地内）	
平成 24 年	2 月	血管撮影（造影）装置を導入	
	3 月	医師住宅（野々江住宅 1、2 号棟）を改築 JA すずしより JA 共済「地域の安全・安心プロジェクト」 高規格救急車寄附收受	
	8 月	WHO・ユニセフより「赤ちゃんにやさしい病院（BFH）」に認定	

平成 24 年	10 月	病院フェスタ開催
	11 月	院内ナースコール更新 院内空調設備更新
平成 25 年	1 月	電子カルテシステムに移行
	3 月	医師住宅（野々江マンション）を改築
	4 月	産婦人科に毎週木曜日禁煙外来を開設
	5 月	検査室に循環器超音波診断システムを導入
平成 26 年	3 月	飯田医師住宅 1 号棟をリフォーム 飯田医師住宅 2 号棟を新築

2.病院の概要

名 称	珠洲市総合病院
所在地	珠洲市野々江町ユ部1番地1 TEL 0768-82-1181 (代表) FAX 0768-82-1191 E-mail byouin@city.suzu.lg.jp
開設者	珠洲市長 泉谷 満寿裕
病院長	追分 久憲
敷地面積	46,366.55 m ²
建物延面積	12,249.30 m ²
診療科目 (13科)	内科、外科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、整形外科、 脳神経外科、泌尿器科、皮膚科、精神科、放射線科、 リハビリテーション科
許可病床数	199床 (一般160床、療養型32床、結核7床)
保険診療	10:1 入院基本
診療指定	保険医療機関、救急指定病院、へき地医療拠点病院、災害拠点病院 労災保険指定医療機関、結核医療機関、生活保護法指定医療機関 母体保護法指定病院、特定疾患治療研究医療機関、養育医療機関 被爆者一般疾病医療機関、小児慢性特定疾患治療医療研究機関 身体障害福祉法腎臓更正医療担当医療機関 身体障害福祉法耳鼻咽喉科更正医療担当医療機関 労災特別加入健診指定医療機関
施設基準	【基本診療料】 一般病棟入院基本料(10対1) 療養病棟入院基本料 結核病棟入院基本料 (10対1) 妊産婦緊急搬送入院基本料 重症者等療養環境特別加算 退院調整加算1 重症皮膚潰瘍管理加算 ハイリスク妊娠管理加算 診療録管理体制加算 救急医療管理加算 看護必要度加算2 救急搬送患者地域連携紹介加算 急性期看護補助体制加算 (50対1) 医師事務作業補助体制加算(25対1) データ提出加算 亜急性期入院医療 管理料1 感染防止対策加算2 患者サポート体制充実加算 救急搬送患 者地域連携受入加算 【特掲診療料】 高度難聴指導管理料 地域連携診療計画管理料 ニコチン依存症管理料

施設基準

医療機器安全管理料 1 ハイリスク妊産婦共同管理料 I
地域連携診療計画退院時指導料 薬剤管理指導料 検体検査管理加算 I
コンタクトレンズ検査料 1 遠隔画像診断 CT 撮影及び MRI 撮影
無菌製剤処理料 1 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)・初期加算 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)・初期加算 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)・初期加算 外来リハビリテーション診療料 ペースメーカー移植術・交換術
透析液水質確保加算 2 在宅療養支援病院 HPV 核酸検出
がん性疼痛緩和指導管理料 2 在宅患者訪問看護・指導料 3
輸血管理料Ⅱ 輸血適正使用加算 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
時間内歩行試験 がん治療連携指導料
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6(歯科点数表第 2 章第 9 部の通則 4 を含む。)に掲げる手術 大動脈バルーンポンピング法

【その他】

入院時食事療養法(Ⅰ)特別管理
明細書発行について「正当な理由」に該当する旨

3. 職員の現況

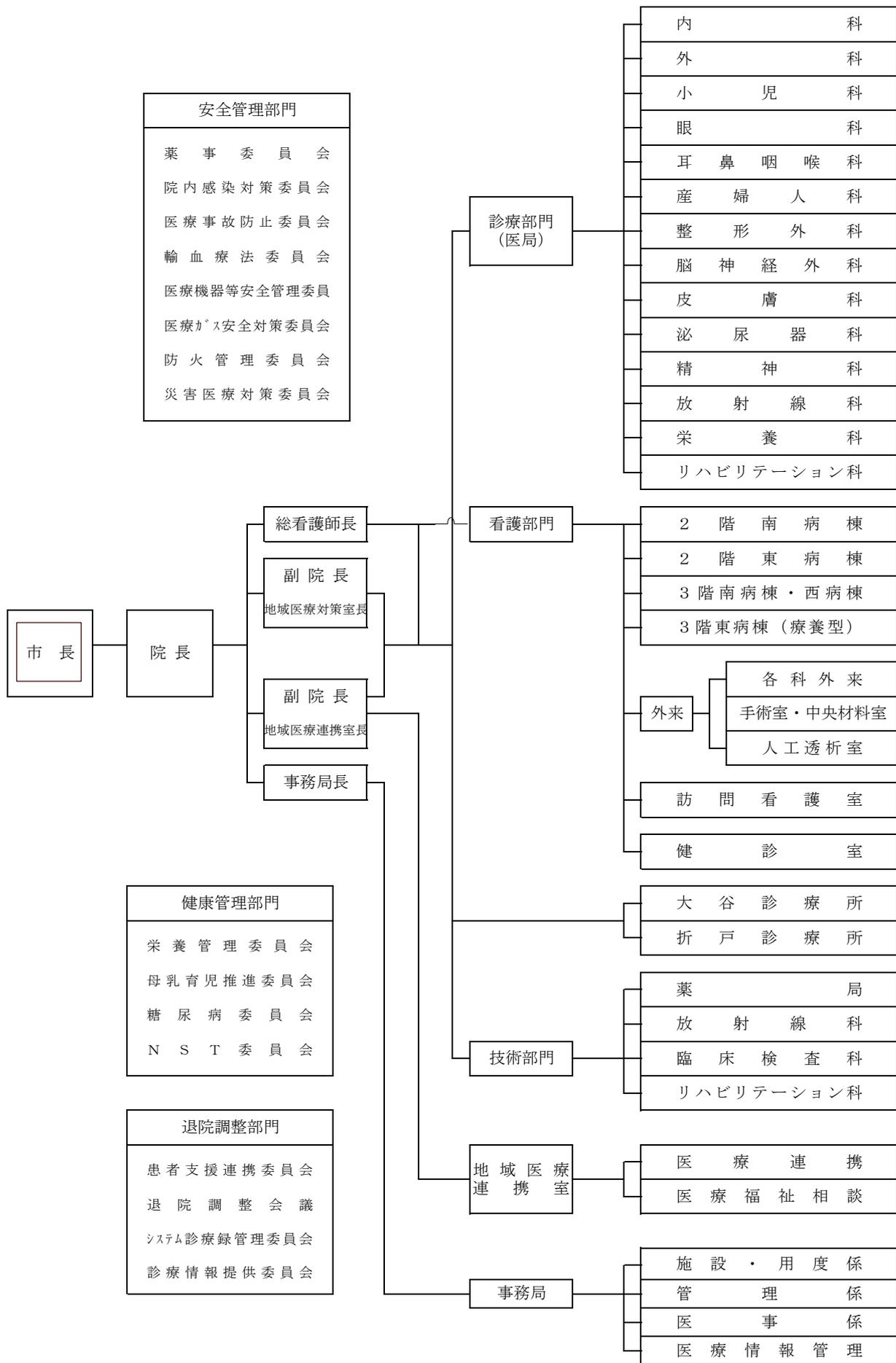
職員数の推移（各年度3月31日現在）

（単位：人）

年 度 職 種		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
		正職員	臨職員	正職員	臨職員	正職員	臨職員
医 師		14	3	14	2	14	2
看 護 部 門		125	24	123	25	126	23
内 訳	看 護 師	89	13	88	14	90	12
	助 産 師	5		6		7	
	保 健 師	1		1		2	
	准 看 護 師	17	2	15		14	
	看 護 助 手	13	9	13	11	13	11
医 療 技 術 部 門		33	5	36	7	35	8
内 訳	薬 剤 師	7		7	1	7	
	診 療 放 射 線 技 師	7		7		7	
	臨 床 検 査 技 師	7		7	1	7	3
	作 業 療 法 士	4		4		3	
	理 学 療 法 士	4		7		7	
	言 語 聴 覚 士	2		2		2	
	管 理 栄 養 士	2		2		2	
	栄 養 士		1		1		1
	そ の 他		4		4		4
事 務 職 員		17	3	18	7	18	9
そ の 他 の 職 員		3	13	2	15	2	16
内 訳	調 理 師	1	12		14		15
	技 術 員	2	1	2	1	2	1
総 計		192	48	193	56	195	58

珠洲市総合病院組織機構図

平成25年4月1日現在



第2章 決算の概要

1. 収益費用明細書

(単位:円、%)

	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
病院事業収益	4,115,626,203	102.0	4,074,169,610	99.0	4,008,373,912	98.4
医業収益	3,829,847,558	104.4	3,806,898,872	99.4	3,741,057,239	98.3
入院収益	1,628,351,991	103.4	1,644,992,871	101.0	1,599,092,012	97.2
外来収益	1,974,307,783	105.1	1,931,672,999	97.8	1,903,454,539	98.5
その他医業収益	144,391,013	106.4	150,415,452	104.2	146,892,227	97.7
室料差額収益	29,506,582	98.2	31,290,222	106.0	28,996,248	92.7
一般会計負担金	45,562,000	98.4	45,136,000	99.1	45,128,000	100.0
へき地巡回収益	3,417,050	116.5	2,509,490	73.4	2,661,620	106.1
公衆衛生活動収益	42,044,294	126.5	42,678,047	101.5	45,717,312	107.1
受託検査施設利用収益	11,111,592	101.8	11,171,471	100.5	10,991,751	98.4
その他医業収益	12,749,495	104.1	17,630,222	138.3	13,397,296	76.0
介護保険収益	82,796,771	101.7	79,817,550	96.4	91,618,461	114.8
居宅サービス収益	26,500,540	81.0	27,310,407	103.1	34,789,888	127.4
施設サービス収益	52,699,991	117.5	49,123,347	93.2	53,951,516	109.8
その他雑収益	3,596,240	94.0	3,383,796	94.1	2,877,057	85.0
医業外収益	284,852,927	79.2	262,929,894	92.3	267,316,673	101.7
受取利息及び配当金	956,187	66.9	238,868	25.0	240,956	100.9
預金利息	956,187	66.9	238,868	25.0	240,956	100.9
他会計補助金	74,647,000	51.3	76,909,800	103.0	77,684,000	101.0
一般会計補助金	68,939,000	49.2	69,264,800	100.5	70,292,000	101.5
国保会計補助金	5,708,000	103.8	7,645,000	133.9	7,392,000	96.7
県支出金	14,736,082	89.9	13,529,000	91.8	13,484,000	99.7
県補助金	14,736,082	89.9	13,529,000	91.8	13,484,000	99.7
負担金交付金	129,893,000	95.6	107,481,000	82.7	109,107,000	101.5
一般会計負担金	129,893,000	95.6	107,481,000	82.7	109,107,000	101.5
患者外給食収益	2,221,862	97.3	1,763,956	79.4	1,403,531	79.6
その他医業外収益	62,398,796	107.2	63,007,270	101.0	65,397,186	103.8
不用品売却収益	0	皆減	1,690	皆増	887	52.5
その他雑収益	62,398,796	107.5	62,805,580	100.7	65,196,299	103.8
寄附金	0	皆減	200,000	皆増	200,000	100.0
特別利益	925,718	16.5	4,340,844	468.9	0	皆減
固定資産売却収益	835,143	皆増	0	皆減	0	
過年度損益修正益	90,575	1.6	4,340,844	4,792.5	0	皆減
診療所事業収益	6,094,471	79.2	7,153,762	117.4	7,647,100	106.9
大谷診療所医業収益	5,725,471	124.1	7,091,762	123.9	7,612,100	107.3
外来収益	5,725,471	124.1	7,091,762	123.9	7,612,000	107.3
その他医業収益	0		0		0	
公衆衛生活動収益	0		0		0	
医療相談収益	0		0		0	
その他医業収益	0		0		0	
大谷診療所医業外収益	369,000	12.0	62,000	16.8	35,000	56.5
受取利息及び配当金	0		0		0	
預金利息	0		0		0	
他会計補助金	298,000	19.3	8,000	2.7	0	皆減
一般会計補助金	0		0		0	
国保会計補助金	298,000	19.3	8,000	2.7	0	皆減
負担金交付金	71,000	4.6	54,000	76.1	35,000	64.8
一般会計負担金	71,000	4.6	54,000	76.1	35,000	64.8
その他医業外収益	0		0		0	
その他雑収益	0		0		0	
特別利益	0		0		0	
過年度損益修正益	0		0		0	
収益合計	4,121,720,674	102.0	4,081,323,372	99.0	4,016,021,012	98.4

(単位：円、%)

	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
病院事業費用	4,045,526,536	99.6	3,959,711,800	97.9	3,970,195,151	100.3
医業費用	3,793,082,463	99.7	3,724,605,812	98.2	3,719,368,293	99.9
給与費	1,727,788,264	97.2	1,777,846,903	102.9	1,724,517,798	97.0
給料	691,212,369	98.3	681,461,522	98.6	671,193,768	98.5
手当	461,981,990	104.4	466,437,070	101.0	468,145,947	100.4
賃金	227,300,877	109.0	250,152,733	110.1	252,597,846	101.0
報酬	0		0		0	
法定福利費	256,088,042	103.2	255,804,328	99.9	252,112,789	98.6
退職給与金	91,204,986	51.9	123,991,250	135.9	80,467,448	64.9
材料費	1,326,029,357	102.3	1,302,252,536	98.2	1,353,711,108	104.0
薬品費	1,113,285,861	101.0	1,063,567,445	95.5	1,092,504,502	102.7
診療材料費	178,522,539	112.3	202,456,132	113.4	224,298,142	110.8
給食材料費	30,453,491	94.3	32,696,029	107.4	32,920,739	100.7
医療消耗備品費	3,767,466	124.2	3,532,930	93.8	3,987,725	112.9
経費	405,812,357	103.7	429,102,226	105.7	441,703,698	102.9
旅費交通費	9,947,477	119.5	10,238,506	102.9	9,726,168	95.0
職員被服費	325,165	18.0	2,814,370	865.5	580,517	20.6
消耗品費	18,369,294	99.2	19,859,326	108.1	23,897,809	120.3
消耗備品費	1,774,688	173.7	1,393,245	78.5	507,040	36.4
光熱水費	53,893,373	100.8	54,450,964	101.0	56,469,687	103.7
燃料費	33,933,720	118.1	36,179,860	106.6	43,104,577	119.1
食糧費	34,505	432.6	53,783	155.9	52,402	97.4
印刷製本費	2,902,035	61.3	1,205,676	41.5	2,314,527	192.0
修繕費	24,746,329	101.0	39,520,026	159.7	23,016,324	58.2
保険料	11,914,249	107.8	11,400,004	95.7	11,262,096	98.8
賃借料	34,178,493	83.9	37,322,062	109.2	40,183,646	107.7
通信運搬費	2,922,840	93.4	3,183,048	108.9	3,261,856	102.5
委託料	199,536,193	108.7	200,751,656	100.6	215,518,191	107.4
交際費	301,641	87.0	422,961	140.2	398,475	94.2
諸会費	1,345,506	89.8	1,510,265	112.2	1,530,669	101.4
公課費	60,400	51.4	138,800	229.8	39,400	28.4
役務費	2,212,746	99.5	2,152,383	97.3	2,133,732	99.1
雑費	7,413,703	97.2	6,505,291	87.7	7,706,582	118.5
減価償却費	285,288,827	95.4	169,961,452	59.6	150,937,631	88.8
建物減価償却費	61,455,888	111.7	62,549,173	101.8	59,725,318	95.5
建物附属設備減価償却費	152,970,860	100.1	24,047,376	15.7	6,742,018	28.0
構築物減価償却費	5,591,521	100.0	5,591,521	100.0	5,591,521	100.0
器械器具減価償却費	57,685,074	74.0	68,112,503	118.1	68,905,144	101.2
車両減価償却費	650,038	97.6	4,162,862	640.4	5,194,797	124.8
備品減価償却費	6,935,446	99.3	5,498,017	79.3	4,778,833	86.9
資産減耗費	15,675,276	278.3	6,706,314	42.8	16,994,606	253.4
たな卸資産減耗費	0		0		0	
固定資産除却費	15,675,276	278.3	6,706,314	42.8	16,994,606	253.4
研究研修費	7,333,348	106.5	7,474,976	101.9	6,797,212	90.9
研究材料費	0		0		0	
謝金	189,048	皆増	112,000	59.2	170,478	152.2
図書費	2,816,185	97.4	1,849,853	65.7	1,828,821	98.9
旅費	2,789,983	90.9	3,983,112	142.8	3,745,184	94.0
研究雑費	1,538,132	165.8	1,530,011	99.5	1,052,729	68.8
へき地巡回医療費	3,767,602	83.2	3,178,645	84.4	3,063,474	96.4
給料	1,943,886	101.3	1,905,596	98.0	1,632,405	85.7
手当	582,416	39.4	494,647	84.9	541,189	109.4
賃金	0		0		0	
法定福利費	230,145	88.7	200,930	87.3	161,390	80.3
へき地巡回経費	1,011,155	116.2	577,472	57.1	728,490	126.2
へき地医療診療支援システム費	21,387,432	99.6	23,988,708	112.2	21,642,766	90.2
消耗品費	0	皆減	147,000	皆増	195,000	132.7
通信運搬費	177,070	99.7	156,948	88.6	150,506	95.9
賃借料	9,864,860	98.1	9,725,760	98.6	9,725,760	100.0
委託料	11,345,502	101.4	13,959,000	123.0	11,571,500	82.9

(単位：円、%)

	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
消耗備品費	0		0		0	
医業外費用	237,731,878	96.7	232,576,275	97.8	226,983,264	97.6
支払利息及び企業債取扱諸費	145,815,142	95.2	138,508,941	95.0	130,523,780	94.2
企業債利息	145,815,142	95.2	138,508,941	95.0	130,523,780	94.2
一時借入金利息	0		0		0	
繰延勘定償却	5,529,648	119.2	5,529,648	100.0	5,079,468	91.9
控除対象外消費税額償却	5,529,648	119.2	5,529,648	100.0	5,079,468	91.9
患者外給食材料費	3,595,511	102.0	3,038,047	84.5	3,109,636	102.4
給食材料費	3,595,511	102.0	3,038,047	84.5	3,109,636	102.4
消費税及び地方消費税	0		0		0	
雑支出	82,791,577	98.1	85,499,639	103.3	88,270,380	103.2
その他雑支出	82,791,577	98.1	85,499,639	103.3	88,270,380	103.2
特別損失	14,712,195	116.9	2,529,713	17.2	23,843,594	942.5
過年度損益修正損	14,712,195	116.9	2,529,713	17.2	23,843,594	942.5
診療所事業費用	5,889,639	76.6	6,991,115	118.7	5,527,200	79.1
大谷診療所医業費用	5,859,484	76.4	6,974,854	119.0	5,514,865	79.1
給与費	3,605,430	100.8	5,088,534	141.1	3,167,740	62.3
給料	583,392	70.1	234,283	40.2	365,005	155.8
手当	545,581	72.3	828,813	151.9	562,484	67.9
賃金	2,062,753	125.3	3,540,641	171.6	1,943,426	54.9
法定福利費	413,704	120.1	484,797	117.2	296,825	61.2
材料費	1,839,164	48.3	1,585,563	86.2	2,024,849	127.7
薬品費	1,839,164	48.3	1,585,563	86.2	2,024,849	127.7
診療材料費	0		0		0	
医療消耗備品費	0		0		0	
経費	334,011	131.3	219,878	65.8	241,397	109.8
旅費交通費	0		0		0	
職員被服費	0		0		0	
消耗品費	8,300	220.6	7,860	94.7	12,171	154.8
消耗備品費	0	皆減	0		0	
光熱水費	0		0		0	
燃料費	64,654	119.3	62,814	97.2	67,728	107.8
印刷製本費	0		0		0	
修繕費	103,000	皆増	0	皆減	0	
保険料	115,238	98.6	115,072	99.9	114,905	99.9
賃借料	14,510	80.2	6,174	42.5	18,405	298.1
通信運搬費	28,309	99.9	27,958	98.8	28,188	100.8
委託料	0		0		0	
役務費	0		0		0	
雑費	0	皆減	0		0	
減価償却費	80,879	312.6	80,879	100.0	80,879	100.0
建物減価償却費	0		0		0	
備品減価償却費	80,879	312.6	80,879	100.0	80,879	100.0
研究研修費	0		0		0	
図書費	0		0		0	
旅費	0		0		0	
研究雑費	0		0		0	
大谷診療所医業外費用	25,034	102.8	15,736	62.9	12,335	78.4
支払利息及び企業債取扱諸費	14,110	80.0	10,504	74.4	6,934	66.0
企業債利息	14,110	80.0	10,504	74.4	6,934	66.0
雑支出	10,924	162.9	5,232	47.9	5,401	103.2
その他雑支出	10,924	162.9	5,232	47.9	5,401	103.2
特別損失	5,121	4,376.9	525	10.3	0	皆減
過年度損益修正損	5,121	4,376.9	525	10.3	0	皆減
費用合計	4,051,416,175	99.6	3,966,702,915	97.9	3,975,722,351	100.2
当年度純損益	70,304,499	△ 265.6	114,620,457	163.0	40,298,661	35.2

2. 資本的収入及び支出

収 入

(単位:円、%)

	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
病院事業資本的収入	431,922,000	147.7	610,671,000	141.4	437,877,000	71.7
企業債	148,400,000	288.2	155,000,000	104.4	158,800,000	102.5
県支出金	44,100,000	110.7	146,367,000	331.9	35,854,000	24.5
県補助金	44,100,000	110.7	146,367,000	331.9	35,854,000	24.5
他会計負担金	207,534,000	103.2	264,304,000	127.4	239,779,000	90.7
一般会計負担金	207,534,000	103.2	264,304,000	127.4	239,779,000	90.7
他会計補助金	6,888,000	皆増	40,000,000	580.7	3,444,000	8.6
国保会計補助金	6,888,000	皆増	40,000,000	580.7	3,444,000	8.6
寄付金	25,000,000	皆増	5,000,000	20.0	0	皆減
診療所事業資本的収入	279,000	106.1	297,000	106.5	316,000	106.4
他会計負担金	279,000	106.1	297,000	106.5	316,000	106.4
一般会計負担金	279,000	106.1	297,000	106.5	316,000	106.4

支 出

	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
病院事業資本的支出	570,766,210	108.0	794,252,743	139.2	581,152,429	73.2
建設改良費	242,597,830	114.2	467,522,540	192.7	226,501,835	48.4
営業設備費	173,092,930	383.8	355,692,290	205.5	115,571,435	32.5
備品購入費	6,288,895	164.8	5,774,480	91.8	18,142,740	314.2
医療器械購入費	141,710,625	343.2	339,910,200	239.9	73,245,900	21.5
自動車購入費	25,093,410	皆増	10,007,610	39.9	5,772,830	57.7
医師住宅整備事業費	55,216,500	33.5	7,962,150	14.4	42,890,400	538.7
(住)委託料	3,160,500	84.6	498,750	15.8	4,113,900	824.8
(住)工事請負費	51,996,000	32.4	7,463,400	14.4	38,734,500	519.0
(住)負担金		皆減			0	
(住)雑費	60,000	146.3		皆減	42,000	皆増
地上デジタル対応設備整備事業費		皆減			0	
工事請負費		皆減			0	
院内改修事業	14,288,400	皆増		皆減	0	
院内空調更新事業費			78,813,000	皆増	68,040,000	86.3
(院内空調)委託料			483,000	皆増	1,575,000	326.1
(院内空調)工事請負費			78,330,000	皆増	66,465,000	84.9
院内設備更新事業費			25,055,100	皆増	0	皆減
(院内設備)工事請負費			25,055,100	皆増	0	皆減
企業債償還金	324,168,380	103.3	321,830,203	99.3	352,300,594	109.5
企業債償還元金	324,168,380	103.3	321,830,203	99.3	352,300,594	109.5
投資	4,000,000	166.7	4,900,000	122.5	2,350,000	48.0
長期貸付金	4,000,000	166.7	4,900,000	122.5	2,350,000	48.0
看護師等修学資金貸付金	4,000,000	166.7	4,900,000	122.5	2,350,000	48.0
診療所事業資本的支出	420,000	52.1	420,000	100.0	420,000	100.0
建設改良費		皆減			0	
営業設備費		皆減			0	
備品購入費		皆減			0	
企業債償還金	420,000	100.0	420,000	100.0	420,000	100.0
企業債償還元金	420,000	100.0	420,000	100.0	420,000	100.0

3.貸借対照表

(単位:円、%)

	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
固定資産	4,890,811,832	98.6	5,164,236,852	105.6	5,214,295,668	101.0
有形固定資産	4,876,851,832	98.5	5,145,376,852	105.5	5,193,085,668	100.9
土地	1,056,779,264	100.0	1,056,779,264	100.0	1,056,779,264	100.0
建物	3,539,923,402	100.8	3,541,667,247	100.0	3,574,515,249	100.9
減価償却累計額(△)	853,771,989	104.8	911,050,465	106.7	963,575,783	105.8
建物附属設備	2,579,627,000	100.2	2,678,549,000	103.8	2,743,349,000	102.4
減価償却累計額(△)	2,292,400,740	107.2	2,316,448,116	101.0	2,323,190,134	100.3
構築物	604,417,995	100.0	604,417,995	100.0	604,417,995	100.0
減価償却累計額(△)	435,083,961	101.3	440,675,482	101.3	446,267,003	101.3
器械及び装置	2,033,708,728	100.5	2,302,886,428	113.2	2,217,010,528	96.3
減価償却累計額(△)	1,434,278,628	96.0	1,453,299,461	101.3	1,379,317,725	94.9
車両運搬具	45,439,779	211.0	51,181,320	112.6	55,542,290	108.5
減価償却累計額(△)	19,017,961	103.5	19,757,565	103.9	23,923,788	121.1
備品	263,352,822	102.3	265,823,677	100.9	297,302,477	111.8
減価償却累計額(△)	211,843,879	103.0	214,696,990	101.3	219,556,702	102.3
建設仮勘定	0		0		0	
投資	13,960,000	140.2	18,860,000	135.1	21,210,000	112.5
長期貸付金	13,960,000	140.2	18,860,000	135.1	21,210,000	112.5
流動資産	2,156,522,628	108.2	2,198,204,295	101.9	2,326,918,925	105.9
現金預金	1,456,309,277	113.2	1,390,065,458	95.5	1,718,565,347	123.6
未収金	680,860,874	107.9	794,991,734	116.8	599,606,892	75.4
貯蔵品	19,146,163	25.5	13,011,069	68.0	8,675,652	66.7
前払費用	122,000	62.4	122,000	100.0	57,000	46.7
前払金	84,314	173.2	14,034	16.6	14,034	100.0
繰延勘定	27,401,631	126.0	43,388,455	158.3	48,730,966	112.3
控除対象外消費税額	27,401,631	126.0	43,388,455	158.3	48,730,966	112.3
資産合計	7,074,736,091	101.5	7,405,829,602	104.7	7,589,945,559	102.5
固定負債	0		0		0	
引当金	0		0		0	
退職給与引当金	0		0		0	
修繕引当金	0		0		0	
流動負債	398,882,790	84.2	326,638,047	81.9	384,982,937	117.9
一時借入金	0		0		0	
未払金	398,882,790	84.2	326,638,047	81.9	384,982,937	117.9
医業未払金	397,088,690	84.1	325,026,247	81.9	383,438,437	118.0
未払消費税及び地方消費税	1,794,100	111.8	1,611,800	89.8	1,544,500	95.8
その他流動負債	0		0		0	
資本金	6,715,986,412	105.9	6,548,736,209	97.5	6,354,815,615	97.0
自己資本金	1,603,220,806	152.0	1,603,220,806	100.0	1,603,220,806	100.0
借入資本金	5,112,765,606	96.7	4,945,515,403	96.7	4,751,594,809	96.1
企業債	5,112,765,616	96.7	4,945,515,403	96.7	4,751,594,809	96.1
他会計借入金	0		0		0	
剰余金	40,133,111	25.7	530,455,346	1,321.7	850,147,007	160.3
資本剰余金	898,362,557	37.6	1,354,330,557	150.8	1,633,723,557	120.6
国県補助金	545,311,000	110.0	731,678,000	134.2	770,976,000	105.4
その他資本剰余金	353,051,557	18.6	622,652,557	176.4	862,747,557	138.6
利益剰余金	△1,008,800,167	45.1	△938,495,668	93.0	△823,875,211	87.8
減債積立金	140,060,000	100.0	140,060,000	100.0	140,060,000	100.0
利益積立金	0		0		0	
建設改良積立金	0		0		0	
当年度未処理欠損金(△)	1,078,555,668	45.4	963,935,211	89.4	963,935,211	100.0
負債資本合計	7,074,736,091	101.5	7,405,829,602	104.7	7,589,945,559	102.5

第3章 業務の概要

1. 患者の状況

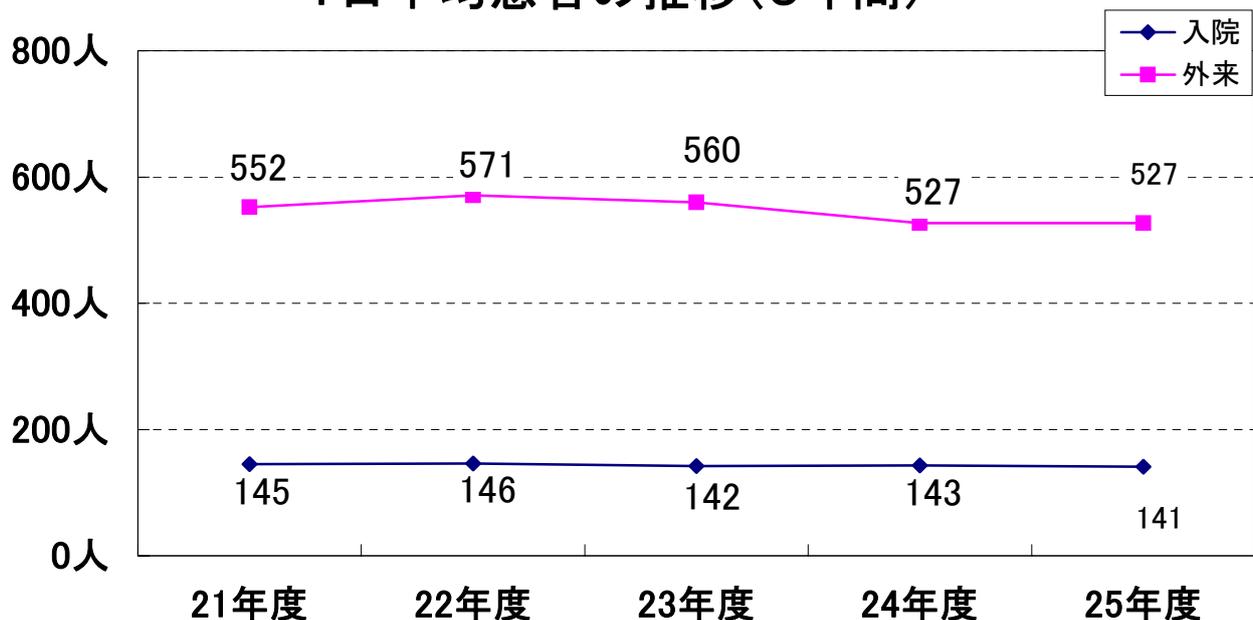
(1)入院・外来別患者数

(単位：人、%)

区 分	入 院				外 来			
	23年度	24年度	25年度	前年比	23年度	24年度	25年度	前年比
内 科	17,745	17,298	16,640	96.2	43,006	42,173	40,105	95.1
外 科	5,770	6,957	5,768	82.9	7,014	6,247	5,644	90.3
小 児 科	666	393	304	77.4	8,594	6,919	6,568	94.9
眼 科					4,343	4,025	3,744	93.0
耳鼻咽喉科	840	594	908	152.9	11,323	10,616	9,648	90.9
産婦人科	1,931	1,897	1,610	84.9	4,461	4,283	4,230	98.8
整形外科	11,808	13,100	13,726	104.8	28,709	26,399	24,752	93.8
脳神経外科	9,575	8,123	8,513	104.8	10,055	9,664	8,062	83.4
泌尿器科					(53)2,735	(51)2,694	(52)2,831	98.5
皮膚科	140	74	32	43.2	6,002	5,783	5,799	100.3
精神科					(99)4,051	(102)4,326	(99)4,564	106.8
短期入所	1,140	1,727	2,404	139.2				
介護保険	2,418	1,841	1,574	85.5	6,170	6,044	7,992	132.2
合 計	52,033	52,004	51,479	99.0	136,469	129,173	123,939	95.9
1ヵ月平均	4,336.1	4,333.7	4,289.9	99.0	11,372.4	10,764.4	10,328.3	95.9
1日平均	142.2	142.5	141.0	99.0	559.3	527.2	527.2	100.0

注：()内数字は稼働日数を示したものの

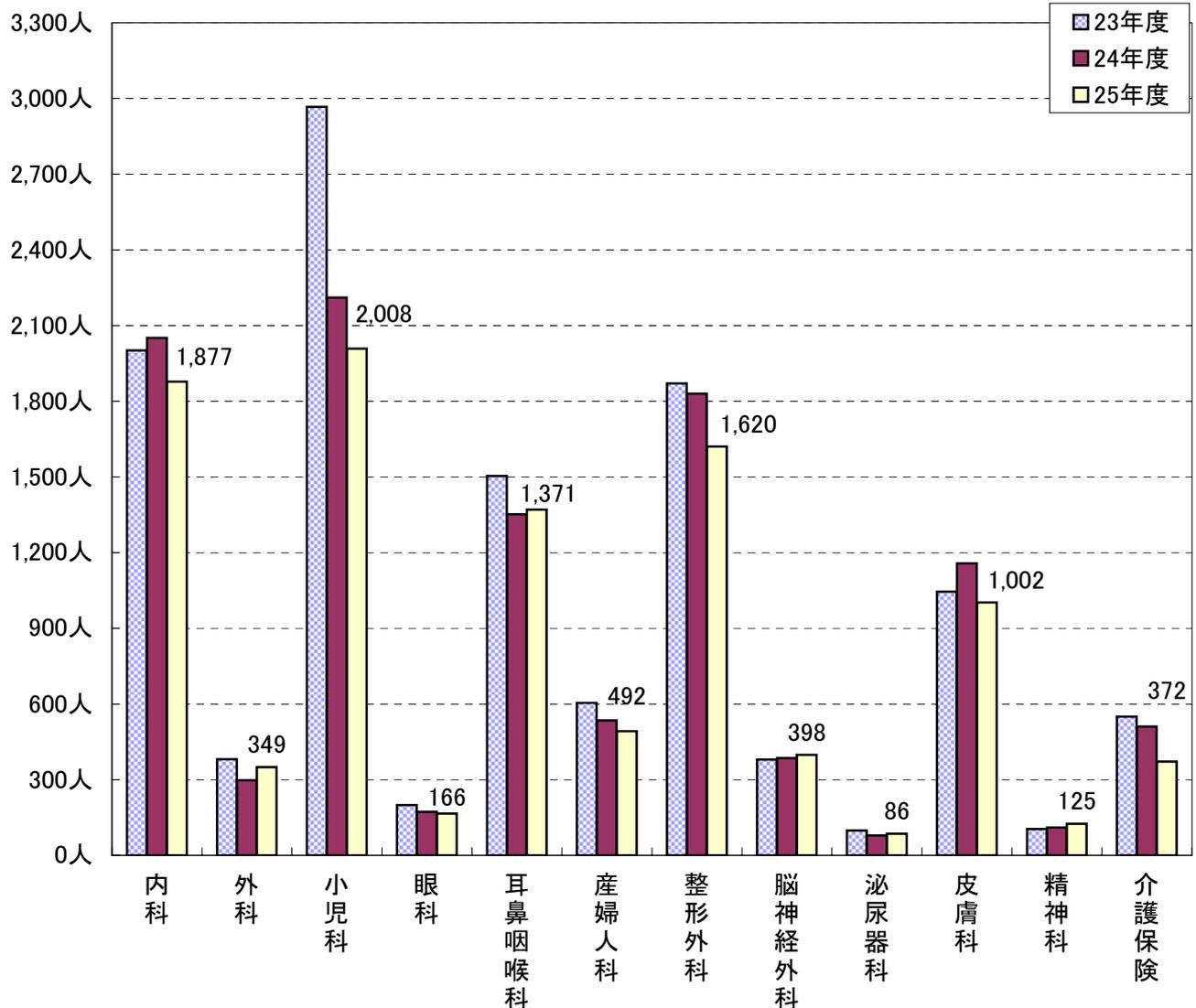
1日平均患者の推移(5年間)



(2) 外来初診患者数

(単位：人、%)

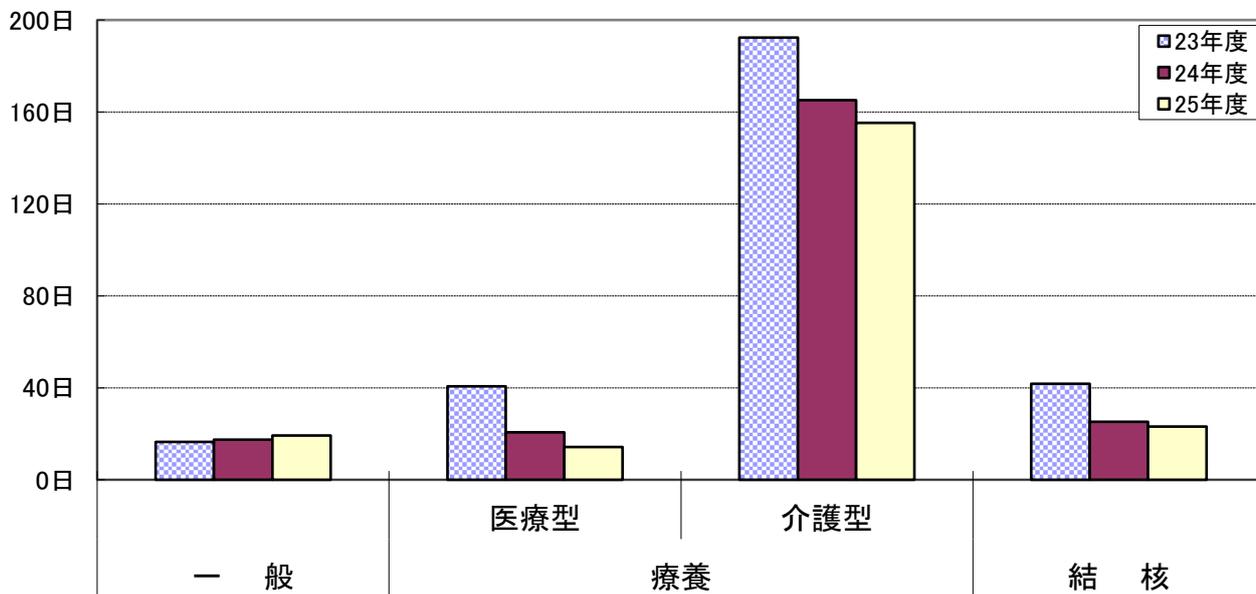
区分	23年度	24年度	25年度	前年比
内科	2,001	2,051	1,877	91.5
外科	381	298	349	117.1
小児科	2,967	2,211	2,008	90.8
眼科	199	172	166	96.5
耳鼻咽喉科	1,503	1,352	1,371	101.4
産婦人科	604	535	492	92.0
整形外科	1,871	1,830	1,620	88.5
脳神経外科	380	385	398	103.4
泌尿器科	98	79	86	108.9
皮膚科	1,045	1,157	1,002	86.6
精神科	104	110	125	113.6
介護保険	550	510	372	72.9
合計	11,703	10,690	9,866	92.3



(3) 平均在院日数

(単位：日)

		23年度	24年度	25年度
一	般	16.5	17.4	19.2
療 養	医療型	40.7	20.6	14.2
	介護型	192.4	165.1	155.2
結	核	41.7	25.2	23.1

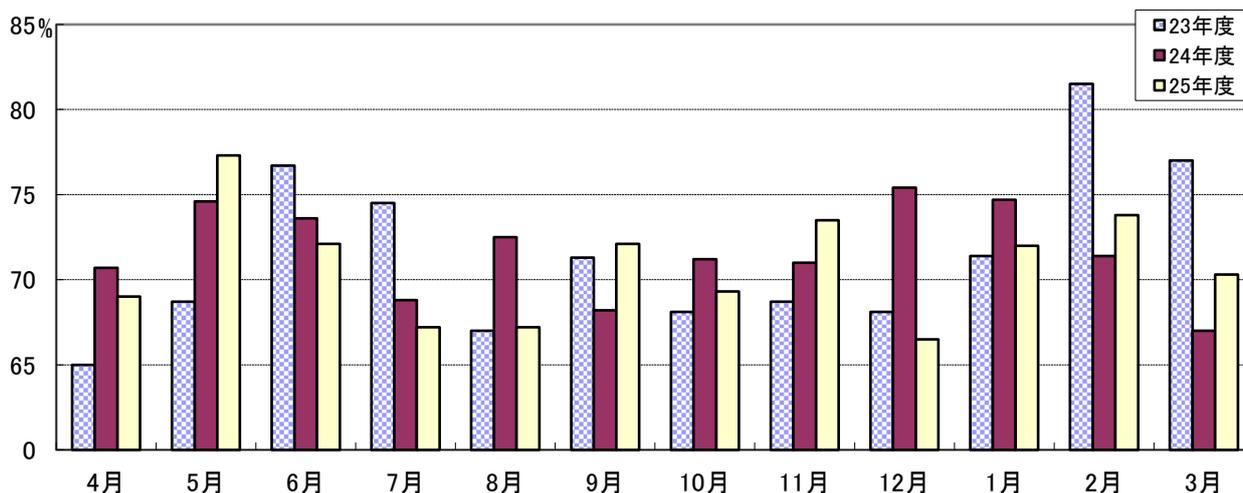


$$*平均在院日数 = \frac{\text{年間在院患者数}}{(\text{年間入院患者数} + \text{年間退院患者数}) \div 2}$$

(4) 病床利用率

(単位：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (平均)
23年度	65.0	68.7	76.7	74.5	67.0	71.3	68.1	68.7	68.1	71.4	81.5	77.0	71.5
24年度	70.7	74.6	73.6	68.8	72.5	68.2	71.2	71.0	75.4	74.7	71.4	67.0	71.6
25年度	69.0	77.3	72.1	67.2	67.2	72.1	69.3	73.5	66.5	72.0	73.8	70.3	70.9



(5) 休日及び時間外救急取り扱い患者数

(単位：人)

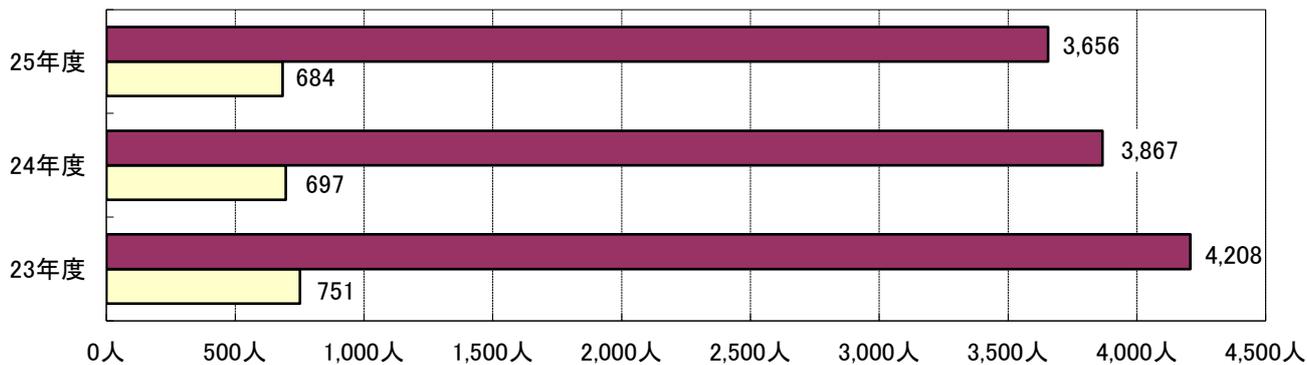
区分	23年度	24年度	25年度
総数	4,959	4,564	4,340
入院	751	697	684
外来	4,208	3,867	3,656

(単位：人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
内科	入院	19	28	14	16	23	18	26	20	21	33	27	19	264
	外来	84	126	91	107	125	95	82	105	121	137	106	122	1,301
	小計	103	154	105	123	148	113	108	125	142	170	133	141	1,565
外科	入院	6	7	8	13	7	5	7	7	6	7	2	8	83
	外来	16	26	15	26	30	31	14	17	28	23	16	19	261
	小計	22	33	23	39	37	36	21	24	34	30	18	27	344
小児科	入院	2	5	0	0	4	3	1	1	1	3	1	1	22
	外来	56	108	37	72	87	31	22	37	49	64	54	74	691
	小計	58	113	37	72	91	34	23	38	50	67	55	75	713
眼科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	1	3	0	1	1	0	2	3	0	0	2	2	15
	小計	1	3	0	1	1	0	2	3	0	0	2	2	15
耳鼻咽喉科	入院	1	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	1	6
	外来	22	29	27	10	19	20	18	15	19	13	14	28	234
	小計	23	29	28	11	19	20	19	15	20	13	14	29	240
産婦人科	入院	14	9	9	7	6	11	9	10	6	6	9	7	103
	外来	14	17	17	16	10	9	11	4	8	3	4	9	122
	小計	28	26	26	23	16	20	20	14	14	9	13	16	225
整形外科	入院	7	7	3	9	9	9	4	7	7	7	7	7	83
	外来	41	56	36	50	56	50	37	24	55	45	42	33	525
	小計	48	63	39	59	65	59	41	31	62	52	49	40	608
脳神経外科	入院	13	7	15	10	12	11	10	8	10	12	6	7	121
	外来	14	24	21	14	18	16	21	23	18	23	11	18	221
	小計	27	31	36	24	30	27	31	31	28	35	17	25	342
泌尿器科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	5	4	4	4	3	4	3	6	2	4	4	1	44
	小計	5	4	4	4	3	4	3	6	2	4	4	1	44
皮膚科	入院	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	外来	11	15	23	34	53	32	16	6	15	8	3	12	228
	小計	11	15	23	34	53	32	17	6	15	8	3	12	229
精神科	入院	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	外来	0	0	2	2	2	0	0	2	3	1	1	1	14
	小計	0	0	2	3	2	0	0	2	3	1	1	1	15
小計	入院	62	63	50	57	61	57	59	53	52	68	52	50	684
	外来	264	408	273	336	404	288	226	242	318	321	257	319	3,656
総合計	326	471	323	393	465	345	285	295	370	389	309	369	4,340	

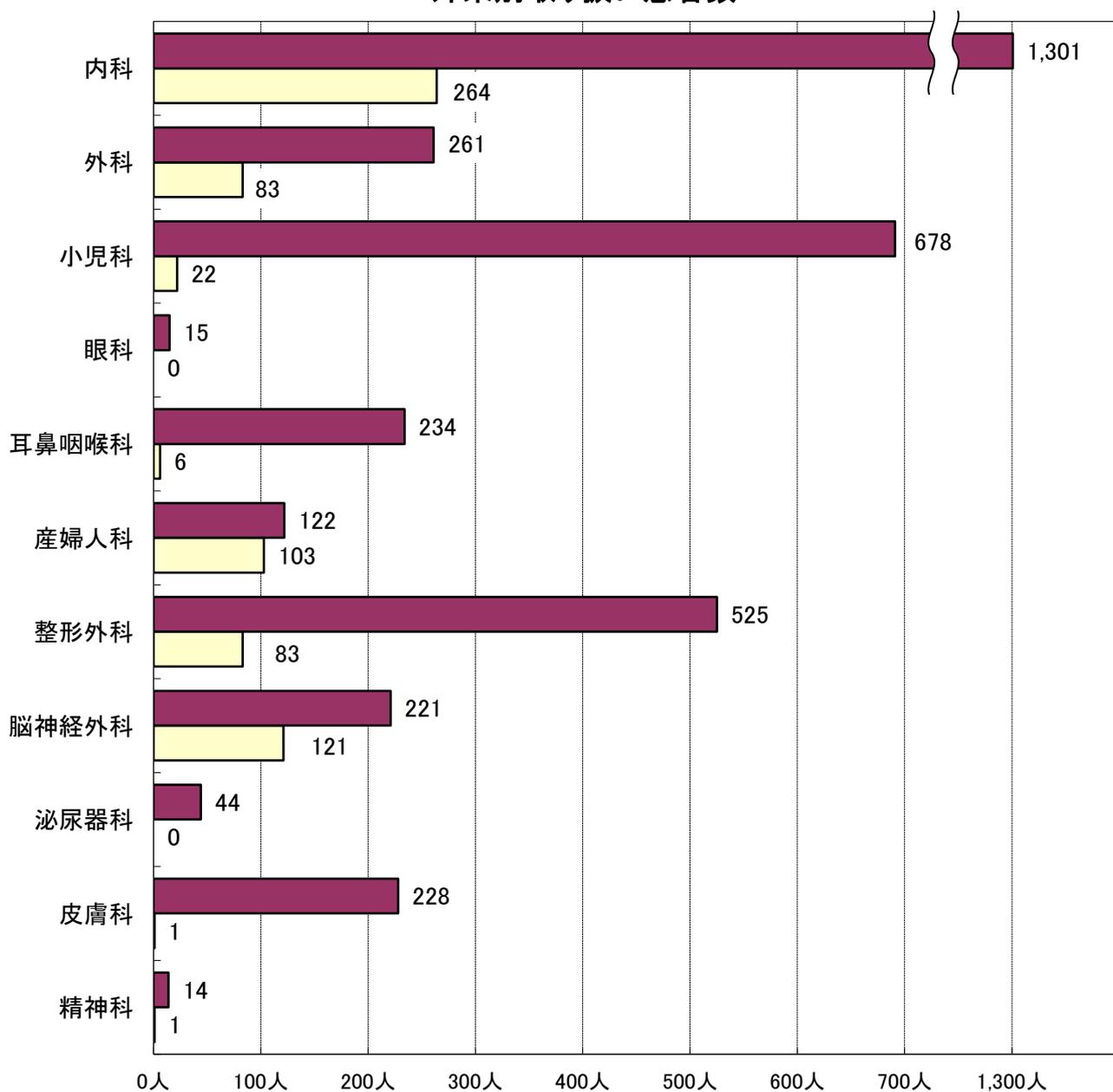
年度別取り扱い患者数(3年間)

■外来 □入院



外来別取り扱い患者数

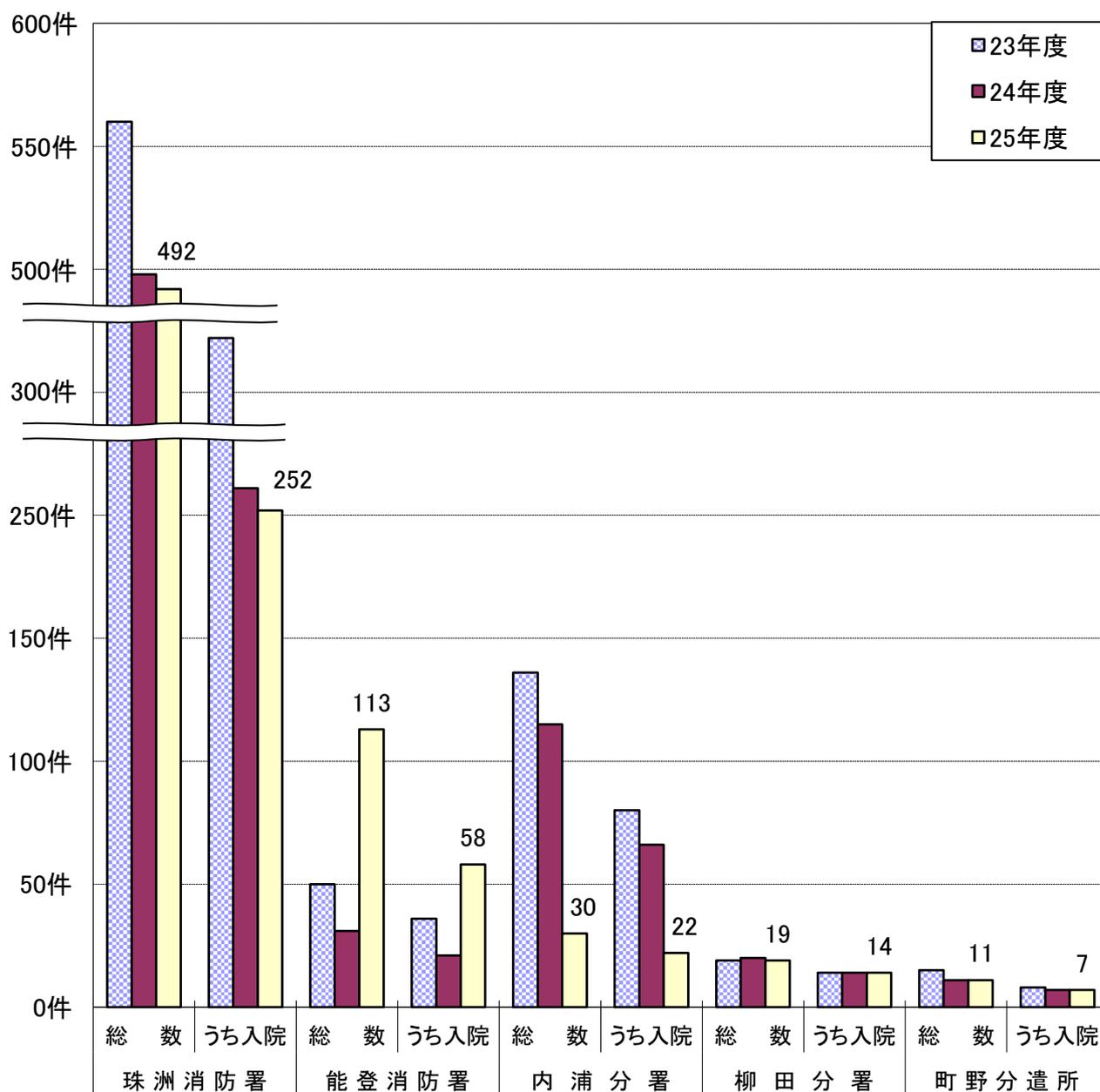
■外来 □入院



(6)救急隊別患者搬入取り扱い件数

(単位：件)

区 分		23年度	24年度	25年度
珠 洲 消 防 署	総 数	560	498	492
	うち入院	322	261	252
能 登 消 防 署	総 数	50	31	113
	うち入院	36	21	58
内 浦 分 署	総 数	136	115	30
	うち入院	80	66	22
柳 田 分 署	総 数	19	20	19
	うち入院	14	14	14
町 野 分 遣 所	総 数	15	11	11
	うち入院	8	7	7
総 数 合 計		780	675	665
入 院 合 計		460	369	353



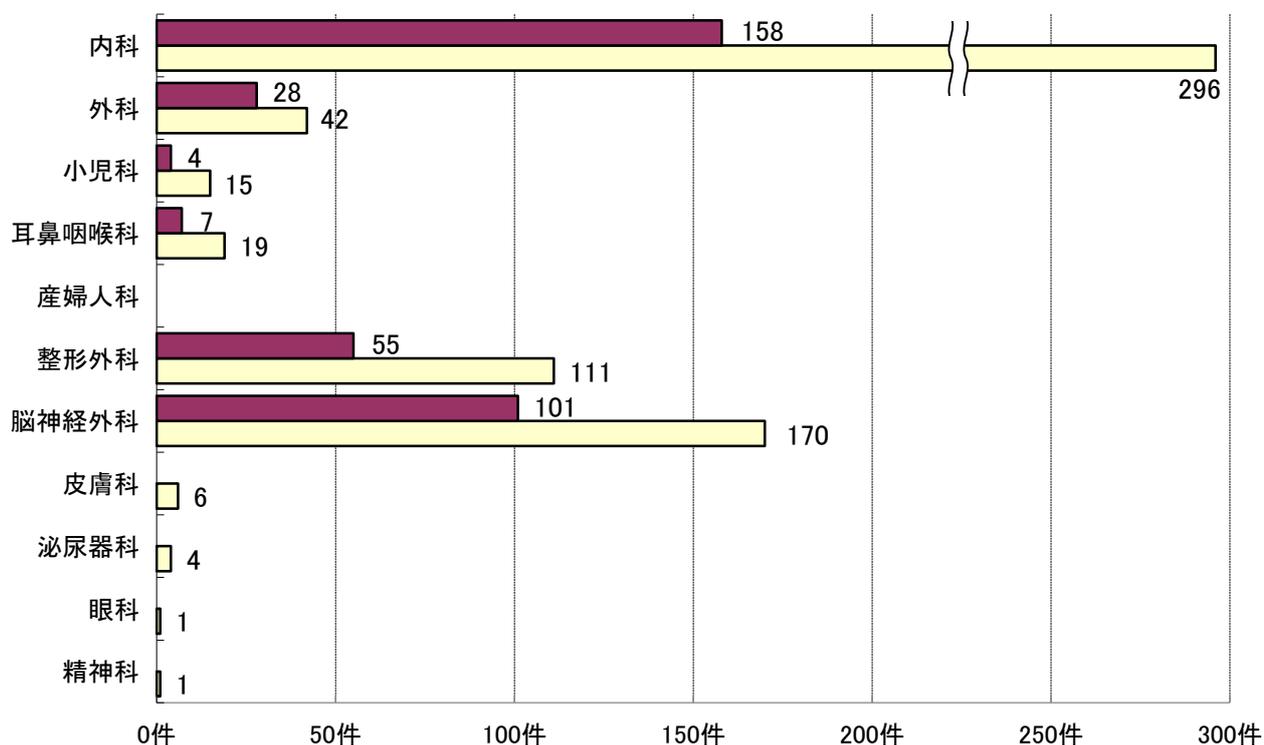
(7)科別救急車搬入取り扱い件数

(単位：件)

区 分		23年度	24年度	25年度
内 科	総 数	386	336	296
	うち入院	226	176	158
外 科	総 数	38	40	42
	うち入院	23	29	28
小 児 科	総 数	14	11	15
	うち入院	3	1	4
耳 鼻 咽 喉 科	総 数	18	17	19
	うち入院	7	6	7
産 婦 人 科	総 数	3	6	0
	うち入院	2	4	0
整 形 外 科	総 数	124	128	111
	うち入院	71	73	55
脳 神 経 外 科	総 数	192	127	170
	うち入院	128	79	101
皮 膚 科	総 数	3	7	6
	うち入院	0	0	0
泌 尿 器 科	総 数	1	1	4
	うち入院	0	0	0
眼 科	総 数	0	0	1
	うち入院	0	0	0
精 神 科	総 数	1	1	1
	うち入院	0	0	0
総 数 合 計		780	674	665
入 院 合 計		460	368	353

平成25年度 科別救急車搬入取り扱い件数

■うち入院 □総 数



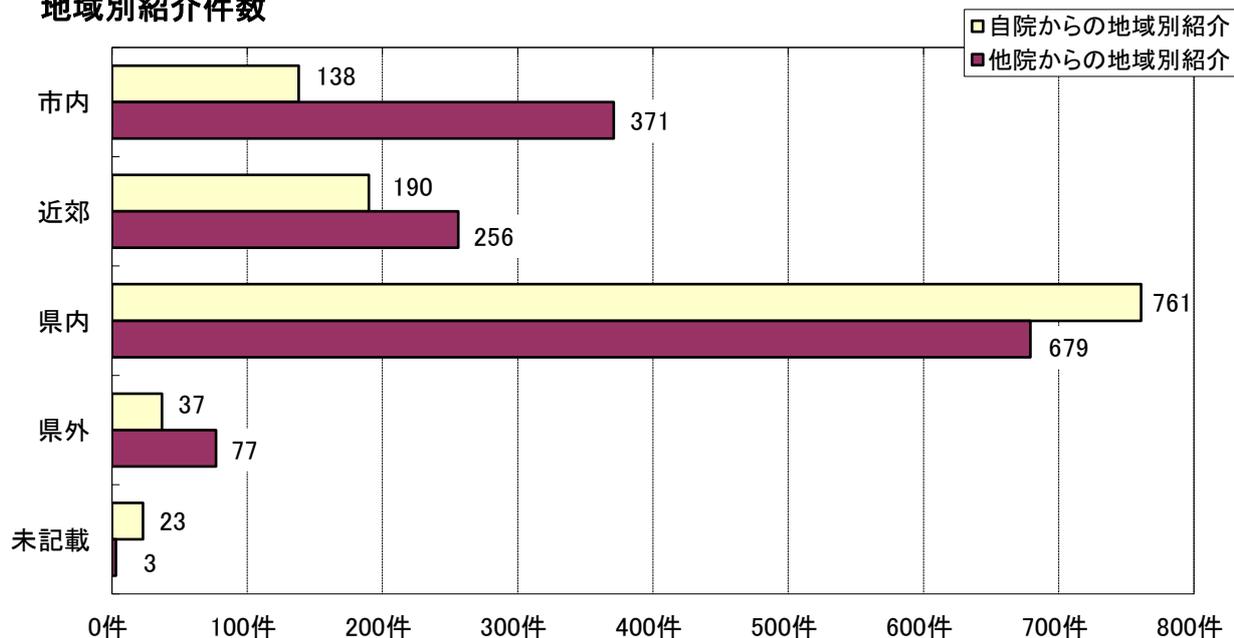
2. 紹介患者数の状況

(1) 地域別紹介件数

平成25年度
(単位：件)

区 分	自院からの地域別紹介	他院からの地域別紹介
市 内	138	371
近 郊	190	256
県 内	761	679
県 外	37	77
未 記 載	23	3
合 計	1,149	1,386

地域別紹介件数



(2) 自院からの紹介科室別内訳

平成25年度
(単位：人)

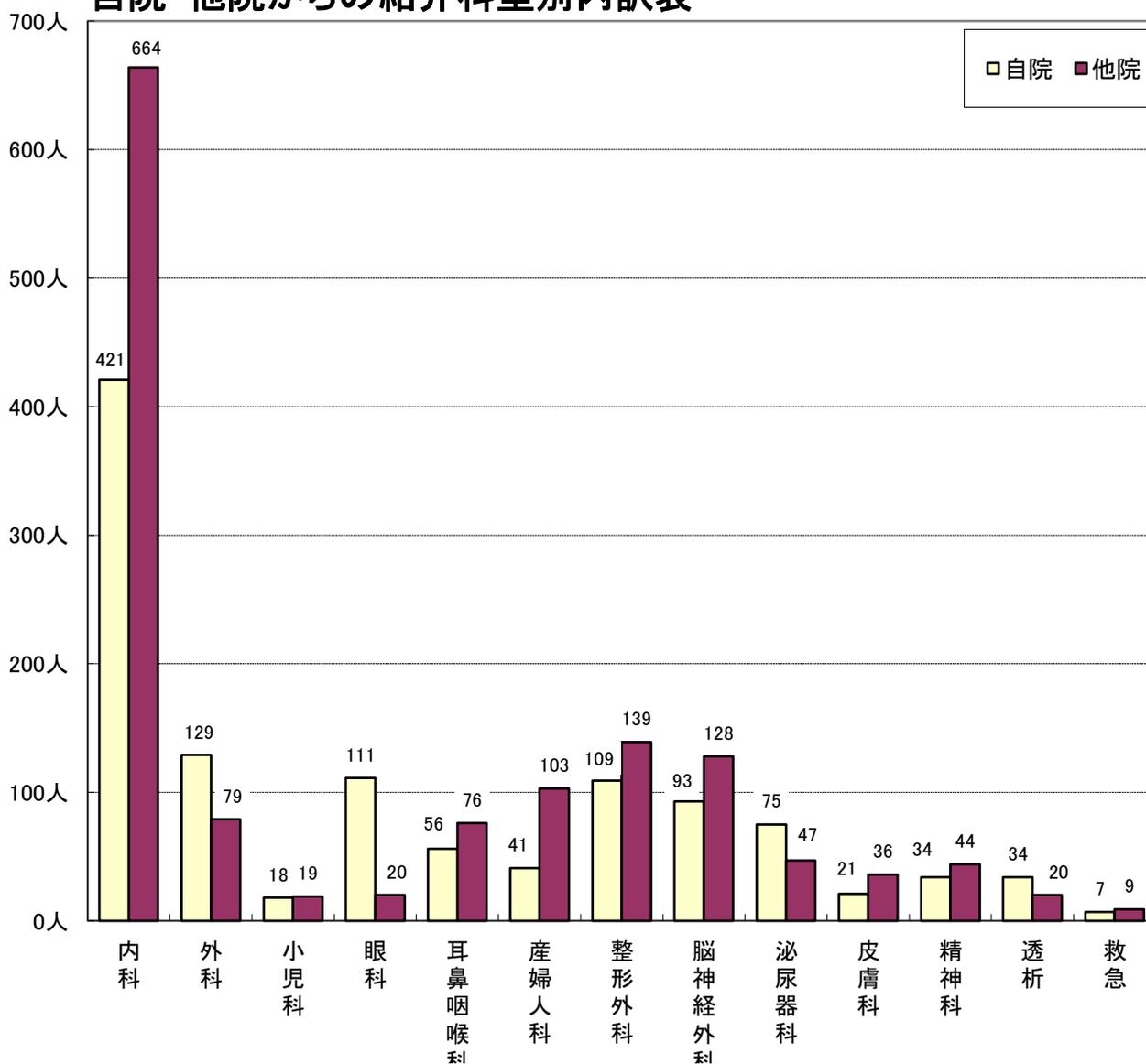
区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内 科	35	48	27	31	37	31	32	43	32	25	32	48	421
外 科	9	9	9	13	12	7	13	8	11	16	6	16	129
小 児 科	0	2	2	3	1	0	3	0	5	0	0	2	18
眼 科	10	17	8	10	10	5	9	9	8	5	7	13	111
耳鼻咽喉科	6	2	4	4	6	5	6	8	6	3	3	3	56
産婦人科	5	0	5	5	3	4	4	3	2	1	0	9	41
整形外科	5	12	7	6	11	11	9	16	9	10	10	3	109
脳神経外科	6	8	7	7	9	9	13	5	6	4	12	7	93
泌尿器科	6	4	7	3	7	11	6	8	9	2	4	8	75
皮膚科	2	3	0	3	1	0	1	2	3	0	2	4	21
精神科	3	4	3	3	1	3	0	3	5	2	5	2	34
透析	1	4	2	5	3	3	3	4	3	2	0	4	34
救 急	1	0	0	0	0	1	0	3	0	1	0	1	7
総 数	89	113	81	93	101	90	99	112	99	71	81	120	1,149
初診患者数	773	1,011	843	985	1,166	799	836	1,004	865	773	741	907	10,703
紹 介 率	11.5%	11.2%	9.6%	9.4%	8.7%	11.3%	11.8%	11.2%	11.4%	9.2%	10.9%	13.2%	10.7%

(3)他院からの紹介科室別内訳

平成25年度
(単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内 科	45	39	32	42	90	63	71	56	82	49	48	47	664
外 科	10	6	7	3	9	5	5	9	7	4	8	6	79
小 児 科	1	1	2	4	1	1	0	1	3	1	2	2	19
眼 科	0	2	1	2	1	2	2	1	3	3	0	3	20
耳鼻咽喉科	7	10	8	8	4	6	6	2	6	10	2	7	76
産 婦 人 科	12	14	4	12	10	8	8	5	6	11	8	5	103
整 形 外 科	9	9	6	8	17	8	25	8	16	13	11	9	139
脳神経外科	13	9	5	15	11	8	9	15	3	15	9	16	128
泌 尿 器 科	5	2	3	4	3	9	5	6	1	3	3	3	47
皮 膚 科	3	2	3	3	6	9	2	2	0	0	0	6	36
精 神 科	9	5	2	1	3	2	5	2	1	4	4	6	44
透 析	3	2	1	0	2	2	2	0	2	1	2	3	20
救 急	2	0	0	0	2	0	0	2	0	0	1	2	9
総 数	119	101	74	102	159	123	140	109	130	114	98	115	1,384
初診患者数	798	1,011	843	985	1,166	799	836	1,004	865	773	741	907	10,728
紹 介 率	14.9%	10.0%	8.8%	10.4%	13.6%	15.4%	16.7%	10.9%	15.0%	14.7%	13.2%	12.7%	12.9%

自院・他院からの紹介科室別内訳表

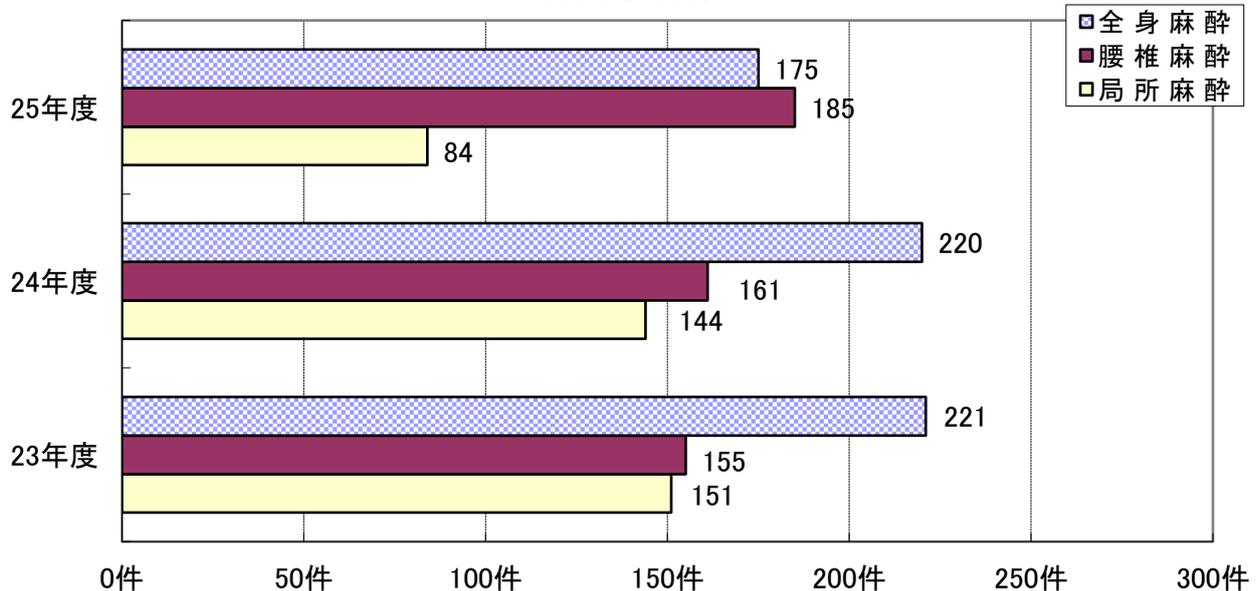


3. 手術の状況

(単位：件)

区 分	23年度	24年度	25年度	
外科	全身麻酔	105	113	78
	腰椎麻酔	29	34	34
	局所麻酔	30	26	19
	小 計	164	173	131
整形外科	全身麻酔	61	74	69
	腰椎麻酔	94	89	113
	局所麻酔	95	91	54
	小 計	250	254	236
脳神経外科	全身麻酔	17	12	13
	腰椎麻酔	0	3	1
	局所麻酔	21	18	10
	小 計	38	33	24
耳鼻咽喉科	全身麻酔	12	10	3
	腰椎麻酔	0	0	5
	局所麻酔	4	8	0
	小 計	16	18	8
産婦人科	全身麻酔	26	11	12
	腰椎麻酔	32	35	32
	局所麻酔	1	0	0
	小 計	59	46	44
内科	局所麻酔	0	1	1
小 計	全身麻酔	221	220	175
	腰椎麻酔	155	161	185
	局所麻酔	151	144	84
合 計	527	525	444	

麻酔別件数



4. 在宅医療及び介護認定の状況

(1) 訪問診察・往診件数

(単位：件)

区 分		23年度	24年度	25年度
利用者数	男 性	249	282	281
	女 性	276	234	213
	合 計	525	516	494
延べ訪問件数		553	516	494
請求内容	介護保険	485	443	393
	医療保険	68	73	101

(2) 科別利用者及び経管栄養・経口者件数

平成25年度	人数	経鼻	胃瘻	経口
総利用者数	476	71	202	203
脳外科患者数	141	34	107	0
内科患者数	328	37	95	196
他科患者数	7	0	0	7

(単位：人・件)

(3) 訪問看護件数

(単位：件)

区 分		23年度	24年度	25年度
利用者数	男 性	247	270	253
	女 性	280	234	196
	合 計	527	504	449
新 規	男 性	7	16	20
	女 性	15	16	17
	合 計	22	32	37
終 了	死亡(自宅)	9	20	17
	死亡(病院)	12	11	9
	その他	1	1	2
	合 計	22	32	28
述べ訪問件数		3,672	3,508	3,135
請求内容	介護保険	3,357	2,789	2,278
	医療保険	315	719	857

(4) 主治医意見書作成件数

(単位：件)

区 分	23年度	24年度	25年度
内 科	377	346	282
外 科	32	51	24
整 形 外 科	146	137	133
脳 神 経 外 科	227	198	158
精 神 科	75	94	100
眼 科	1	1	2
泌 尿 器 科	0	0	1
皮 膚 科	2	1	1
耳 鼻 咽 喉 科	3	1	2
産 婦 人 科	0	0	1
合 計	863	829	704

(5) 訪問リハビリ件数

(単位：件)

区 分		23年度	24年度	25年度
利用者数	男 性	48	55	57
	女 性	2	7	5
	合 計	50	62	62
延べ訪問件数		196	204	218
請求内容	介護保険	145	162	169
	医療保険	51	42	49

(6) 認定調査件数

(単位：件)

区 分	23年度	24年度	25年度
在 宅	0	0	0
施 設	59	17	0
合 計	59	17	0

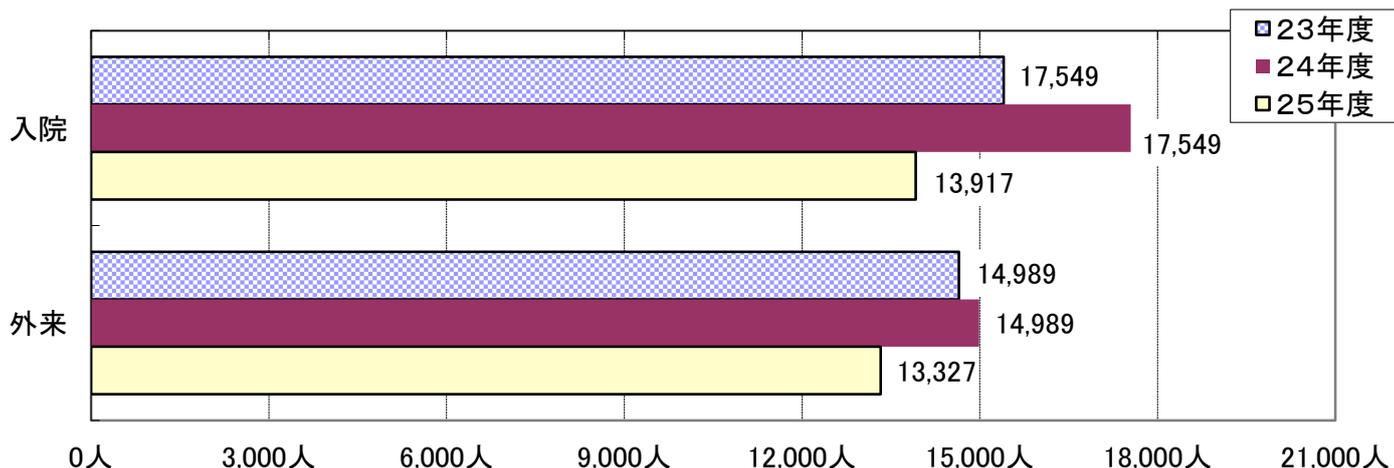
5. リハビリテーションの状況

平成25年度

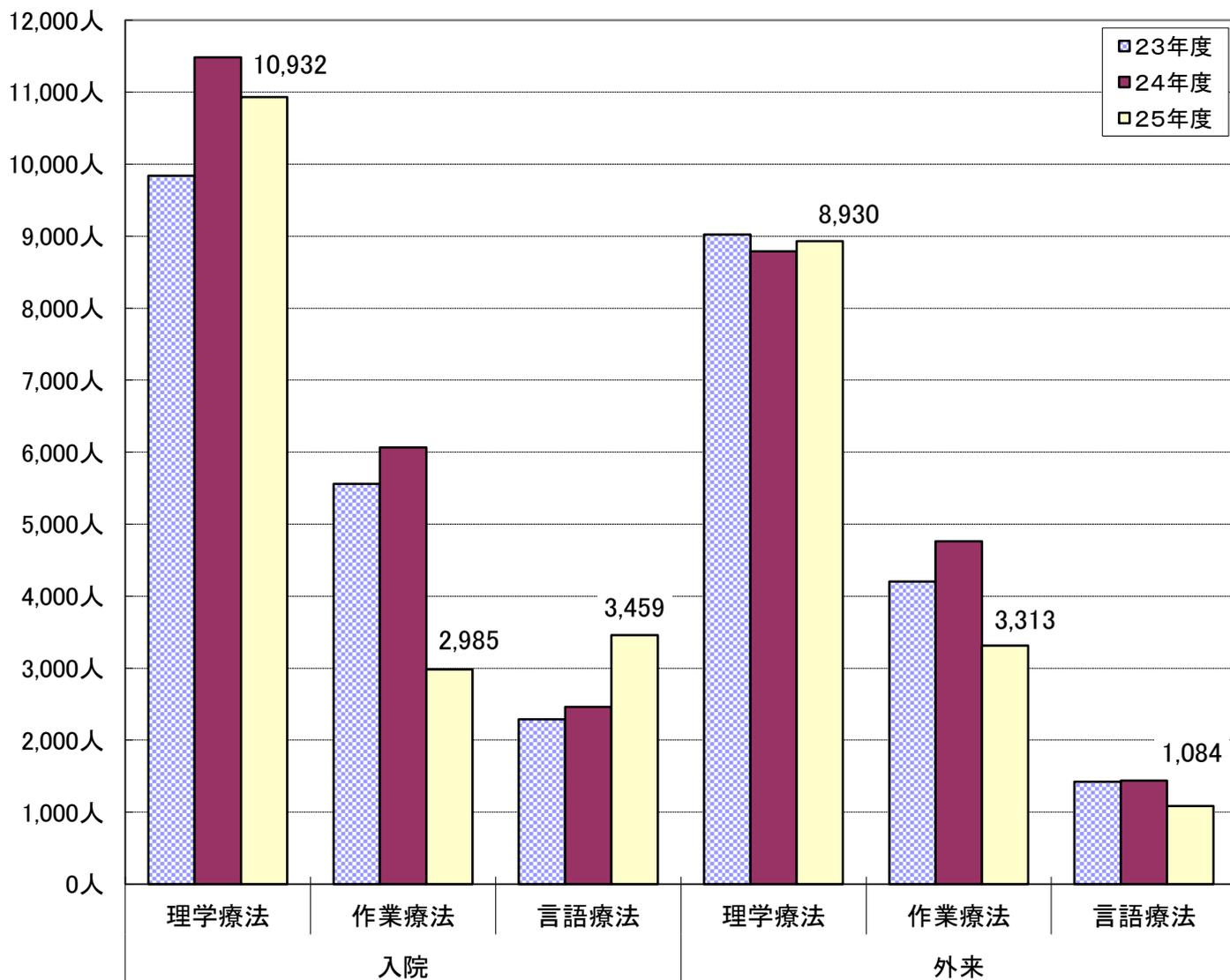
(単位：人)

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計		
入	理学療法	脳血管Ⅰ	244	285	266	309	0	0	0	0	0	0	0	0	1,104	
		脳血管Ⅱ	0	0	0	0	204	105	154	203	264	265	229	275	1,699	
		脳・廃用	213	260	163	137	192	150	199	154	155	139	73	49	1,884	
		運動器Ⅰ	434	418	403	434	531	608	681	566	467	177	492	494	5,705	
		運動器Ⅱ	14	16	14	15	17	15	10	7	11	19	15	20	173	
		呼吸器	32	13	4	0	7	0	12	29	29	37	69	135	367	
		総合計	937	992	850	895	951	878	1,056	959	926	637	878	973	10,932	
	作業療法	脳血管Ⅰ	206	175	206	230	0	0	0	0	0	0	0	0	817	
		脳血管Ⅱ	0	0	0	0	146	118	178	114	160	164	151	182	1,213	
		脳・廃用	114	67	44	20	51	0	59	26	17	12	4	7	421	
		運動器Ⅰ	37	60	30	14	40	31	31	59	49	41	57	56	505	
		運動器Ⅱ	0	0	0	0	0	8	2	4	0	0	0	2	16	
		呼吸器	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	3	4	13	
		総合計	357	302	280	264	237	157	273	203	226	220	215	251	2,985	
院	言語療法	脳血管Ⅰ	111	174	157	136	0	0	0	0	0	0	0	0	578	
		脳血管Ⅱ	0	0	0	0	87	115	117	127	137	193	146	161	1,083	
		脳・廃用	146	208	164	166	129	98	149	181	157	171	77	152	1,798	
		運動器Ⅰ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		運動器Ⅱ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		呼吸器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		総合計	257	382	321	302	216	213	266	308	294	364	223	313	3,459	
外	理学療法	脳血管Ⅰ	154	135	128	126	0	0	0	0	0	0	0	0	543	
		脳血管Ⅱ	0	0	0	0	156	151	158	152	127	121	115	125	1,105	
		運動器Ⅱ	521	535	511	549	531	446	496	472	497	420	390	497	5,865	
		通所	97	106	100	98	102	84	90	98	97	110	116	114	1,212	
		呼吸器	13	15	19	19	26	18	21	13	13	13	17	18	205	
		総合計	785	791	758	792	815	699	765	735	734	664	638	754	8,930	
	作業療法	脳血管Ⅰ	111	93	84	91	0	0	0	0	0	0	0	0	379	
		脳血管Ⅱ	0	0	0	0	113	110	107	88	90	79	72	76	735	
		運動器Ⅱ	97	103	92	87	84	54	94	116	138	132	107	120	1,224	
		通所	71	93	83	92	82	78	76	71	77	87	86	79	975	
		呼吸器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		総合計	279	289	259	270	279	242	277	275	305	298	265	275	3,313	
	来	言語療法	脳血管Ⅰ	73	42	42	52	0	0	0	0	0	0	0	0	209
			脳血管Ⅱ	0	0	0	0	54	45	44	44	55	63	66	70	441
運動器Ⅱ			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
通所			35	44	34	39	37	35	31	34	35	35	37	38	434	
呼吸器			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総合計			108	86	76	91	91	80	75	78	90	98	103	108	1,084	

過去3年間のリハビリ患者数 入院外来別総数



過去3年間のリハビリ患者数 入院外来別部門別数

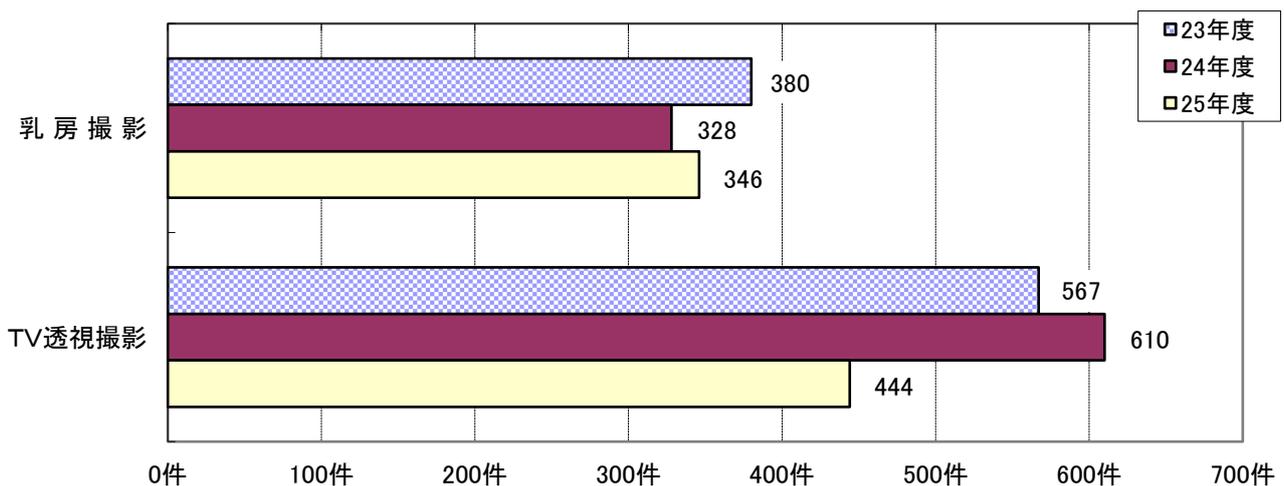
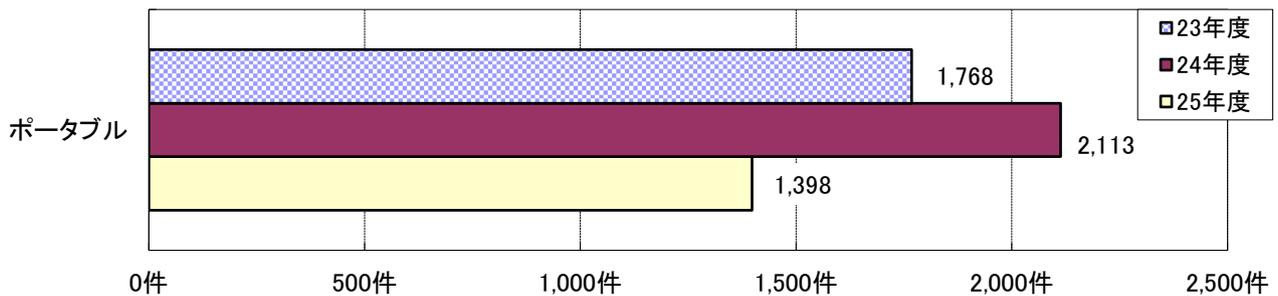
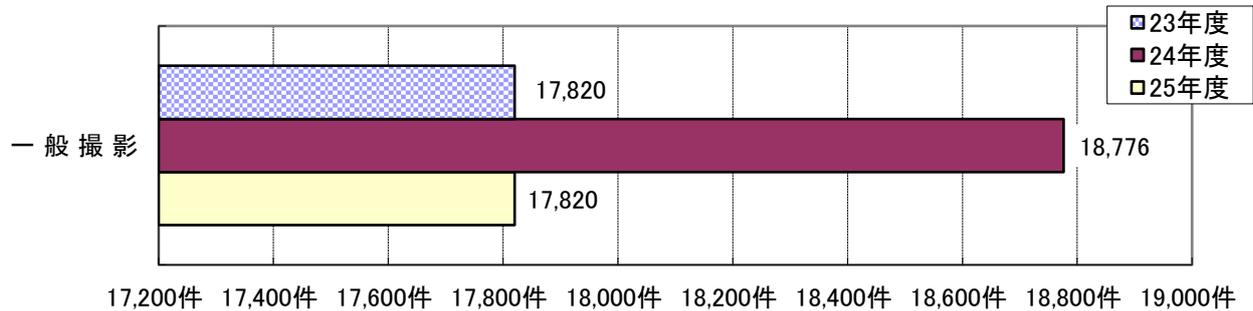


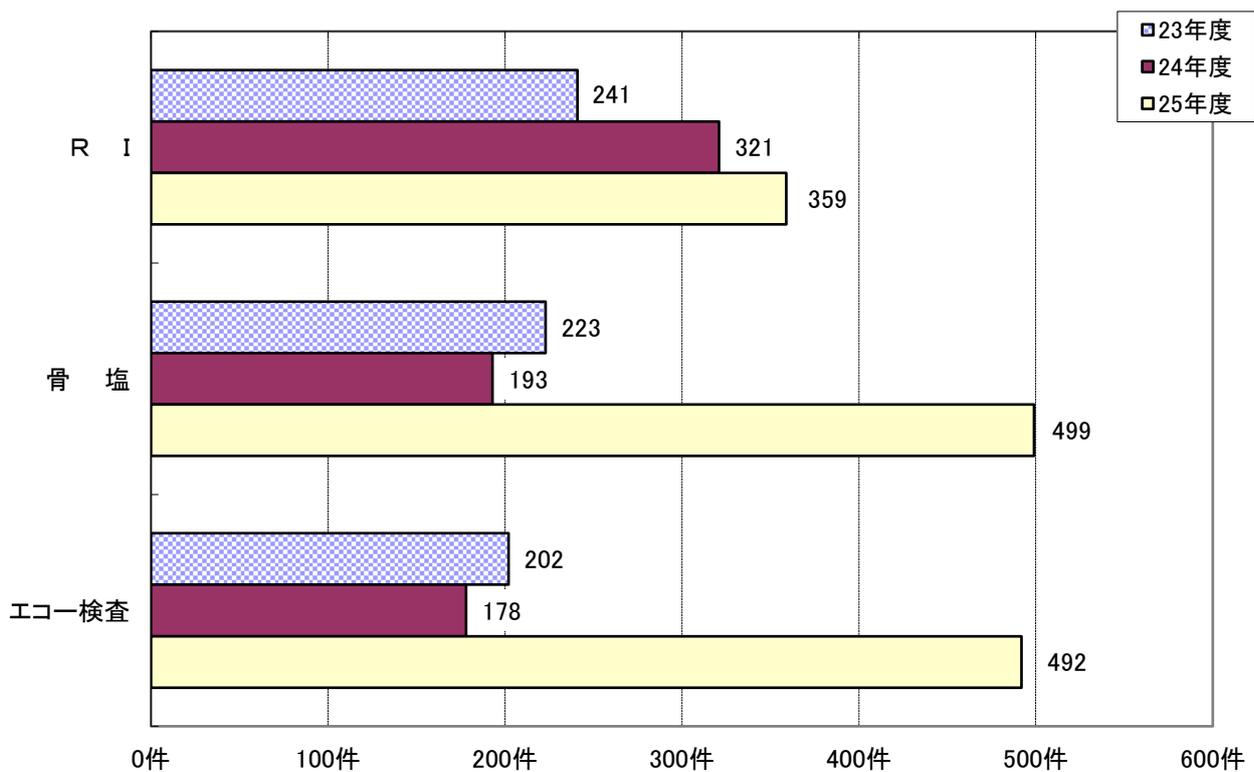
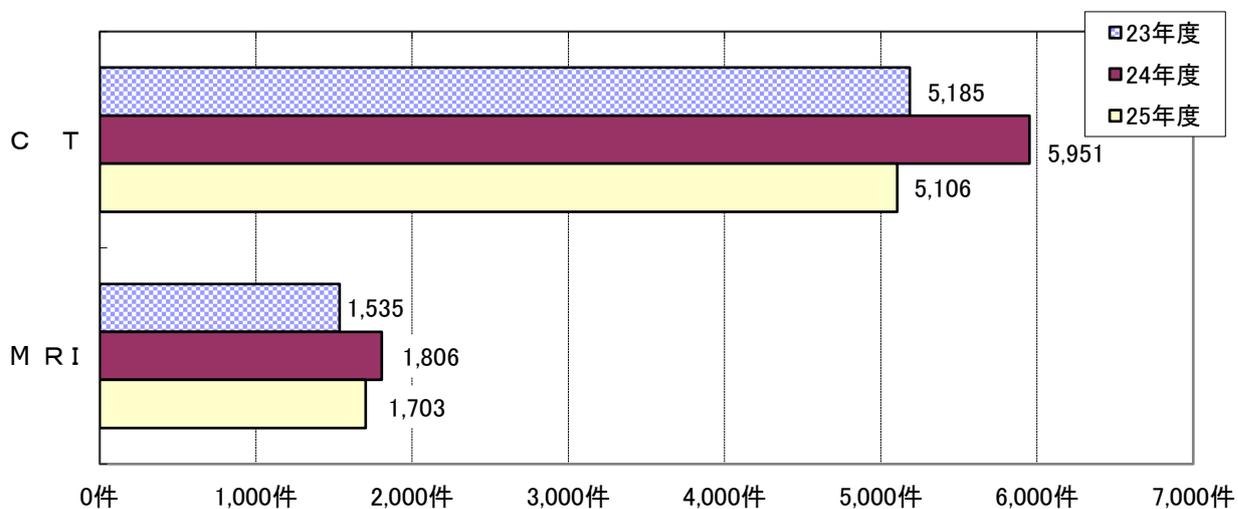
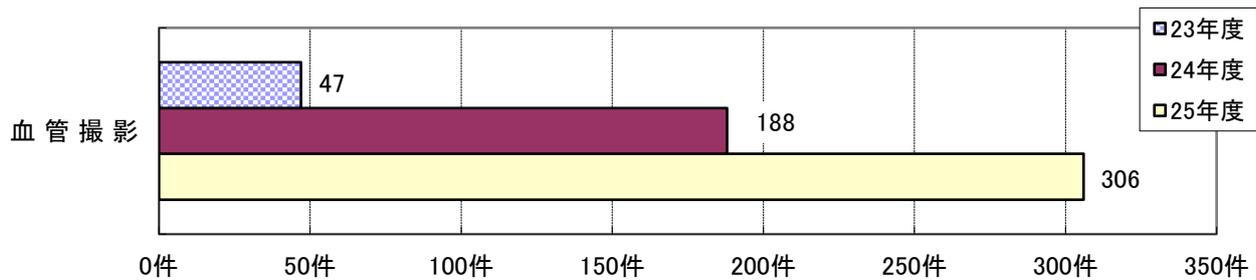
6. 放射線の状況

(1) 撮影件数

(単位：件)

区分	23年度	24年度	25年度
一般撮影	17,820	18,776	17,820
ポータブル	1,768	2,113	1,398
乳房撮影	380	328	346
TV透視撮影	567	610	444
血管撮影	47	188	306
C T	5,185	5,951	5,106
M R I	1,535	1,806	1,703
R I	241	321	359
骨塩	223	193	499
エコー検査	202	178	492
合計	27,968	30,464	28,473





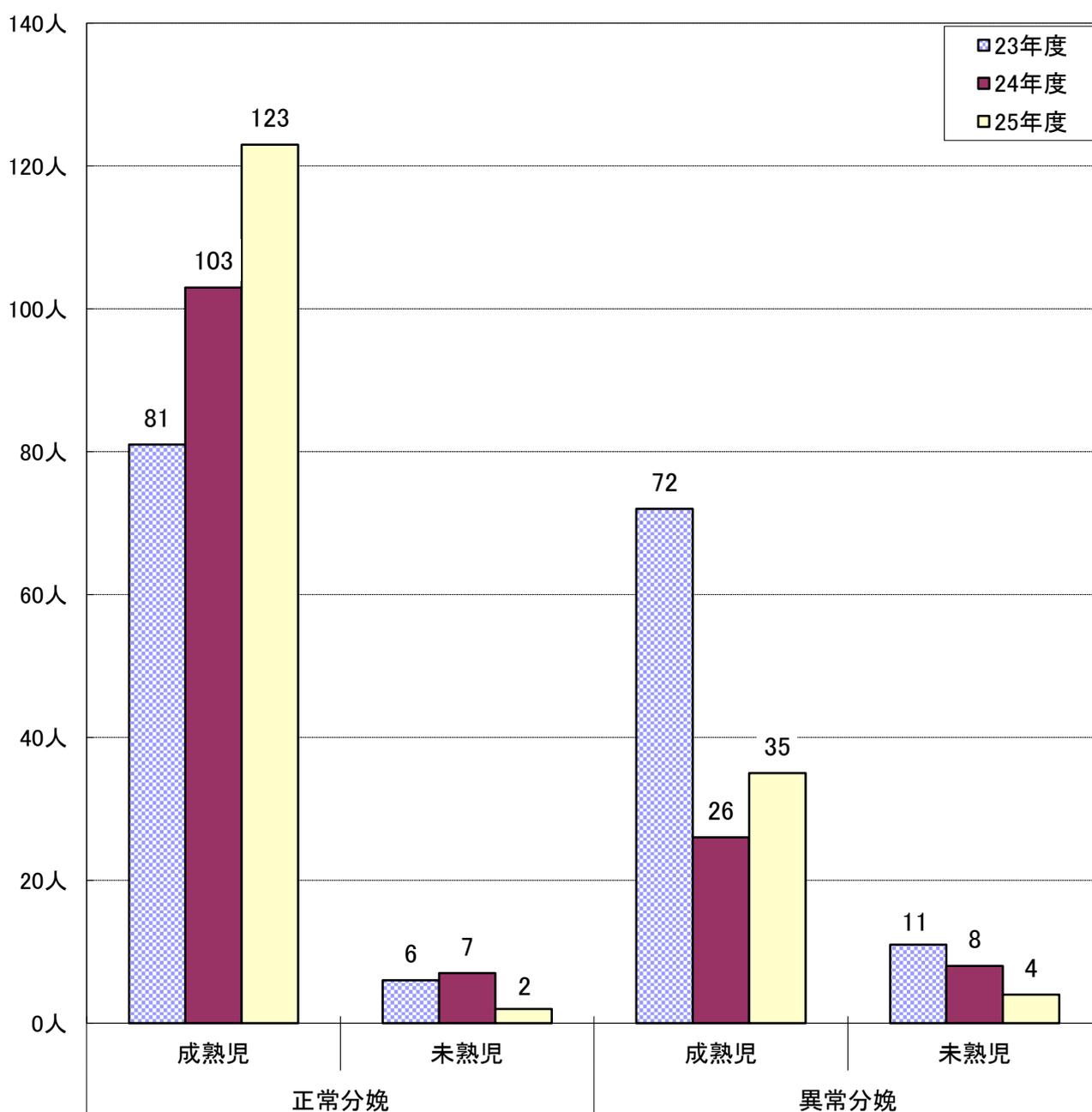
7. 分娩の状況

(1) 分娩の状況

(単位：人)

区分		23年度	24年度	25年度
正常分娩	成熟児	81	103	123
	未熟児	6	7	2
異常分娩	成熟児	72	26	35
	未熟児	11	8	4
合計		170	144	164

分娩状況表



(2)分娩集計

平成25年集計

①分娩について(※死産は含まない)

項目	件数
1) 母体搬送を受けた症例	0 例
2) 母体平均年齢	29.9 才
3) 若年齢出産数(20歳未満)	2 人
4) 高年齢出産数(35歳以上)	35 人
(40歳以上)	5 人

項目	件数	比率
(1)全分娩数	164	
分娩総数	164	100.0%
単胎	164	100.0%
多胎(双胎以上)	0	0.0%
(2)分娩様式		
経膣分娩数	124	75.6%
全帝王切開数	40	24.4%
うち緊急帝王切開数	15	9.1%
(3)医療行為を行った数		
1)吸引分娩	27	16.5%
2)鉗子分娩	0	0.0%
3)会陰切開	3	2.4%
4)会陰裂傷(3,4度)	0	0.0%
5)陣痛誘発促進剤	12	9.7%
6)全硬膜外麻酔	0	0.0%
医学的適応		
7)希望による無痛分娩	0	

②分娩後の入院期間(小数点1桁)

項目	平均入院日数	
経膣分娩	初産	6.0日
	経産	5.5日
帝王切開	5.9日	

※出産当日を1日目とする

③新生児の状況

項目	人数	比率
新生児 総数	164	
在胎週数		
42週以上	1	0.6%
37～41週	161	98.2%
36～28週	2	1.2%
28週未満	0	0.0%
不明	0	0.0%
出生体重		
4,000g以上	1	0.6%
2,500g～3,999g	156	95.1%
1,500g～2,499g	7	4.3%
1,499g以下	0	0.0%
不明	0	0.0%

項目	人数
新生児搬送した症例	0 人
新生児高ビリルビン血症	
母子同室での治療	22 人
母子分離での治療	0 人

項目	人数	比率
母子同室 総数	164	100.0%
健常新生児	152	92.7%
健常新生児以外	12	7.3%
母子異室 NICU入院など	0	0

健常新生児以外の母子同室症例及び症例数

症例	症例数
低出生体重児	7
巨大児	1
低血糖	2
母体薬剤投与	0
その他	4

④母子同室児(健常新生児)の栄養法について

(在胎37週以上42週未満、出生体重2,500g以上4,000g未満)

1) 入院中の栄養法

項目	人数	比率
対象新生児数	152	
母乳のみ	102	67.1%
糖水のみ補足	0	0.0%
人工乳のみ補足	50	32.9%
糖水+人工乳補足	0	0.0%
人工乳のみ	0	0.0%

2) 退院時の栄養法

項目	人数	比率
対象新生児数	152	
母乳のみ	140	92.1%
糖水のみ補足	0	0.0%
人工乳のみ補足	12	7.9%
糖水+人工乳補足	0	0.0%
人工乳のみ	0	0.0%

3) 入院中の体重

	経膈分娩	帝王切開
新生児数	125	39
最低体重日令	2.7	3.1
最低体重(%)	-7.8	-9.6
退院時体重(%)	-3.7	-6.1

4) 対象(健常新生児)例の退院後の栄養法

	2週間健診		1カ月健診	
	人数	比率	人数	比率
受診数	148	97.4%	150	98.7%
平均日令				
母乳のみ	131	88.5%	133	88.7%
混合総数	17	11.5%	17	11.3%
混合(母乳>人工乳)	10	6.8%	12	8.0%
混合(母乳<人工乳)	7	4.7%	5	3.3%
人工乳のみ	0	0.0%	0	0.0%

⑤母子同室(健常新生児以外)の新生児の栄養法について

(2,500g未満などで母子同室を行った例)

1) 入院中の栄養法

	人数	比率
対象新生児数	12	
母乳のみ	6	50.0%
糖水のみ補足	0	0.0%
人工乳のみ補足	6	50.0%
糖水+人工乳補足	0	0.0%
人工乳のみ	0	0.0%

2) 退院時の栄養法

	人数	比率
対象新生児数	12	
母乳のみ	9	75.0%
糖水のみ補足	0	0.0%
人工乳のみ補足	3	25.0%
糖水+人工乳補足	0	0.0%
人工乳のみ	0	0.0%

3) 対象例の入院中の体重減少率

	経膈分娩	帝王切開
新生児数	8	4
最低体重日令	2.7	2.3
最低体重(%)	-8.8	-8.9
退院時体重(%)	-2.2	-2.8

4) 対象(母子同室)例の退院後の栄養法

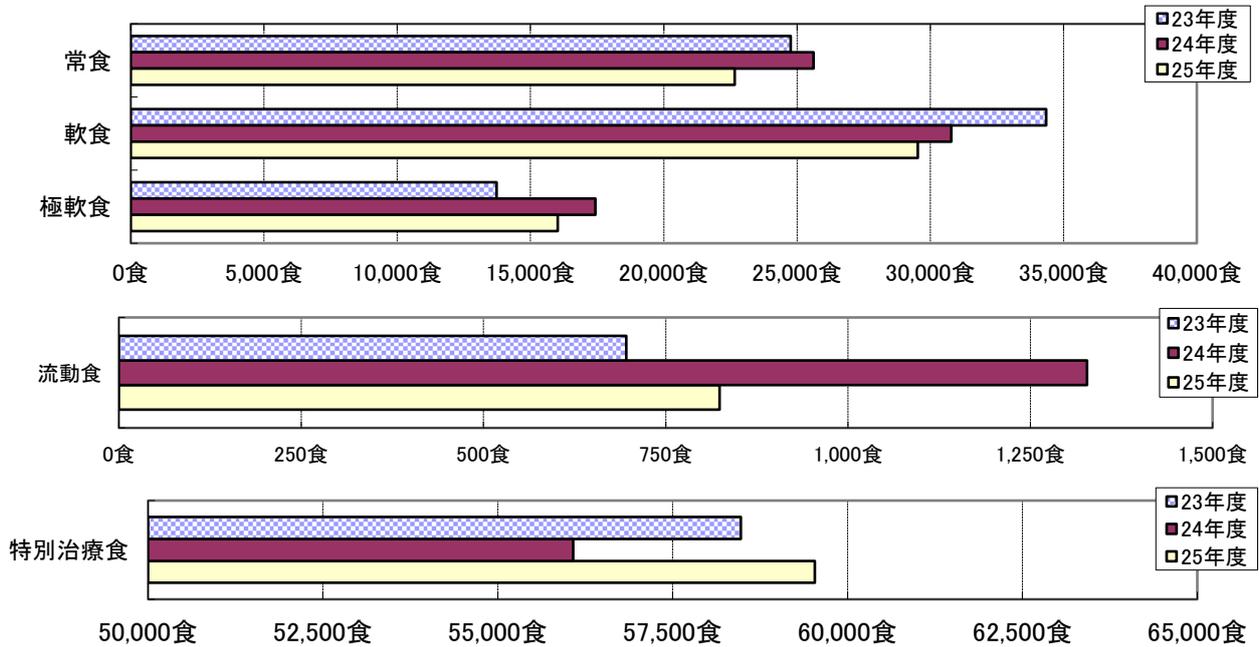
	2週間健診		1カ月健診	
	人数	比率	人数	比率
受診数	12	100.0%	12	100.0%
平均日令				
母乳のみ	9	75.0%	7	58.3%
混合総数	3	25.0%	5	41.7%
混合(母乳>人工乳)	1	8.3%	3	25.0%
混合(母乳<人工乳)	2	16.7%	2	16.7%
人工乳のみ	0	0.0%	0	0.0%

8. 給食及び栄養指導の状況

(1) 患者給食数

(単位：食)

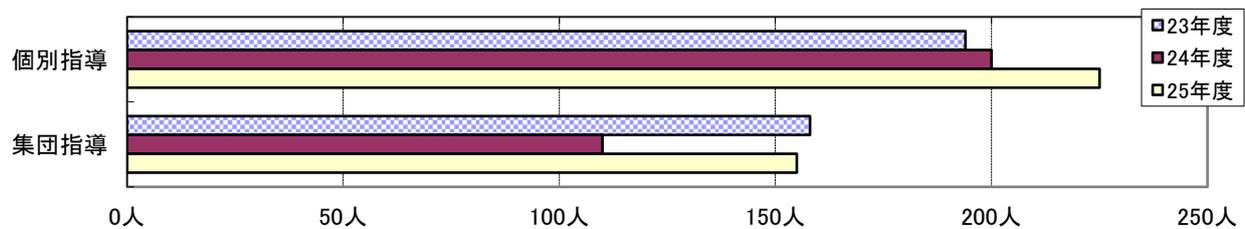
区分	23年度	24年度	25年度
常食	24,766	25,624	22,655
軟食	34,345	30,790	29,536
極軟食	13,728	17,435	16,022
流動食	696	1,328	824
特別治療食	58,472	56,075	59,534
合計	132,007	131,252	128,571



(2) 栄養指導数

(単位：人)

区分	23年度	24年度	25年度
個別指導	194	200	225
集団指導	158	110	155
合計	352	310	380



(3) 平均残食率

(単位：kg)

区分	23年度	24年度	25年度
朝食	6.1	6.5	8.3
昼食	7.2	7.8	10.3
夕食	6.1	6.2	8.3

9. 医療相談の状況

(1) 医療相談の状況

(単位:件)

区分	23年度	24年度	25年度
面接	1,909	1,939	1,932
電話	2,445	3,427	3,395
訪問	54	77	76
文書	571	784	568
協議	703	871	797
合計	5,682	7,098	6,768

(2) 医療相談状況内容

平成25年度
科別相談件数

(単位:件)

内科	外科	小児科	眼科	耳鼻咽喉科	整形外科
994	348	37	1	23	1,004
産婦人科	脳神経外科	泌尿器科	皮膚科	精神科	透析
7	698	6	4	218	46

相談内容集計

(単位:件)

No.	内容	件数	No.	内容	件数
1	医療費	136	10	院内関係	91
2	生活費等	36	11	院外関係	911
3	身体障害者手帳等	243	12	心理社会	85
4	障害年金相談等	96	13	理解促進	302
5	介護保険制度等	818	14	情報交換	1,338
6	受診・入院相談	208	15	退院後方針	1,098
7	療養中	1,416	16	住居相談	192
8	在宅ケア	1,079	17	その他	167
9	家族関係	625			

退院支援

(単位:件)

介護	障害	利用無し	死亡	合計
216	5	37	33	291

退院支援連携カンファレンス

年間 72 件

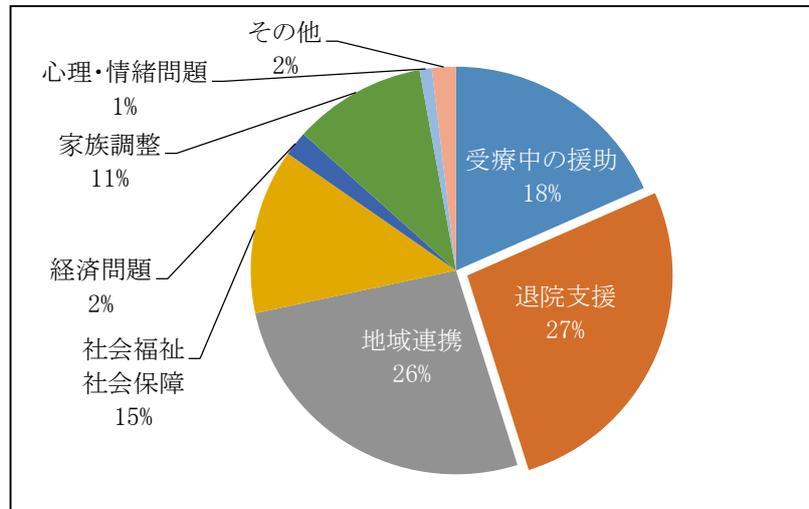
退院先

(単位:件)

在宅	療養	老保	老福	GH	障害	養護	医療保	その他	合計
184	24	23	11	7	0	0	17	9	275

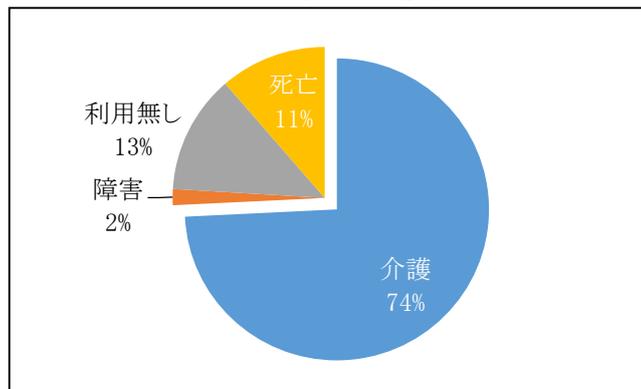
相談内容集計表

相談内容集計	件数
受療中の援助	1,624
退院支援	2,369
地域連携	2,340
社会福祉社会保障	1,157
経済問題	172
家族調整	927
心理・情緒問題	85
その他	167
合計	8,841



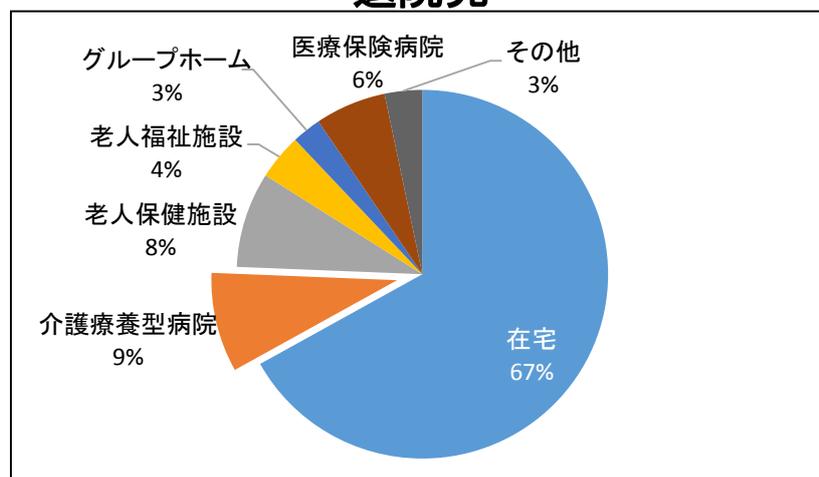
退院支援

退院支援	件数
介護	216
障害	5
利用無し	37
死亡	33
合計	291



退院先

退院先	件数
在宅	184
介護療養型病院	24
老人保健施設	23
老人福祉施設	11
グループホーム	7
障害者施設	0
養護老人ホーム	0
医療保険病院	17
その他	9
合計	275

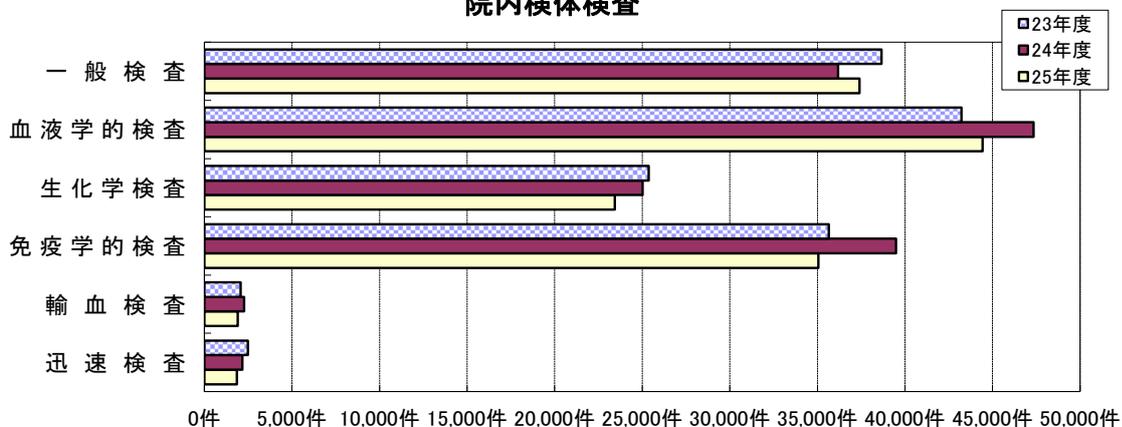


10. 臨床検査の状況

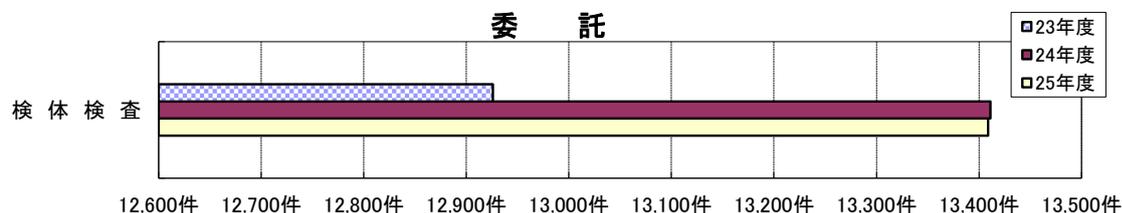
(単位：件)

区 分		23年度	24年度	25年度
院内検体検査	一般検査	38,665	36,177	37,401
	血液学的検査	43,234	47,345	44,441
	生化学検査	25,374	25,024	23,438
	免疫学的検査	35,659	39,497	35,058
	輸血検査	2,067	2,277	1,900
	迅速検査	2,477	2,176	1,859
	総数	147,476	152,496	144,097
委託	検体検査	12,926	13,411	13,409
生理学的検査	心電図(負荷含む)	4,917	5,154	4,413
	ホルター心電図	155	209	126
	呼吸機能検査	385	416	415
	NCV、ABR等	35	41	45
	脳波	49	41	34
	ABI/PWV	355	1,081	826
	24時間血圧測定			9
	睡眠ポリグラフィー			24
	ガス分析	655	704	583
	頰動脈エコー		74	96
	心エコー		698	733
	下肢エコー		70	71
	シャントエコー		24	149
	腎動脈エコー			7
	甲状腺エコー			5
関節エコー			16	
総数	6,551	8,512	7,552	
微生物学的検査	一般菌塗沫鏡検	1,346	1,442	1,627
	一般菌培養検査	3,043	2,887	2,765
	結核菌塗沫鏡検	317	483	294
	結核菌培養検査	311	467	239
	薬剤感受性試験	1,675	1,976	2,469
	細胞診(標本作成)	408	399	221
	総数	7,100	7,654	7,615
合計	174,053	182,073	172,673	

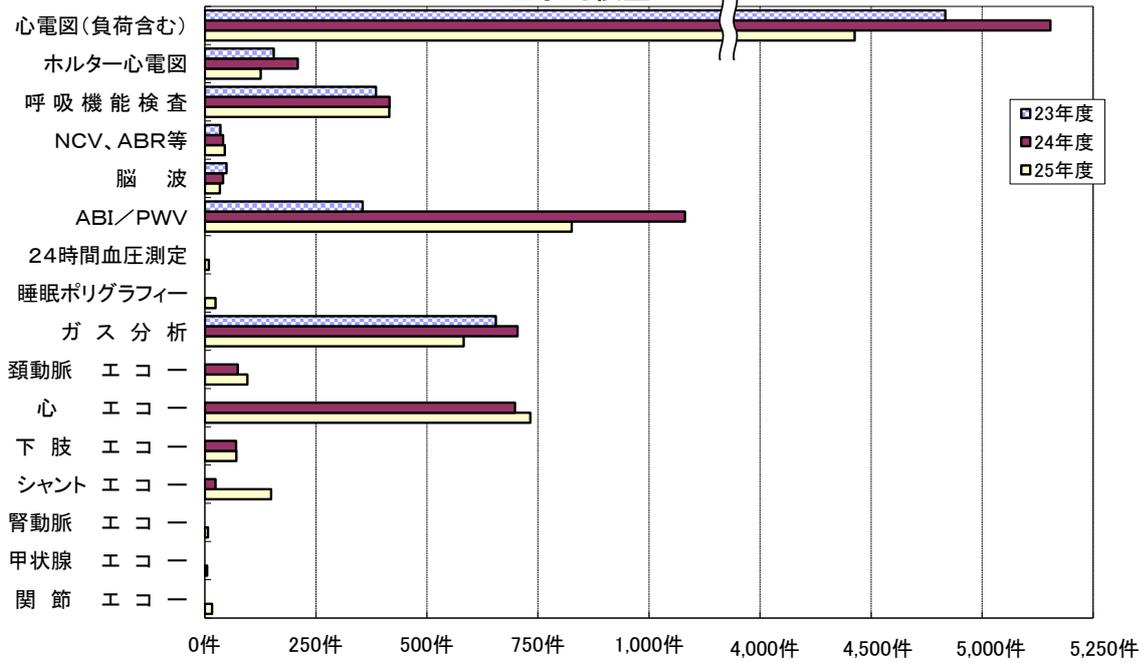
院内検体検査



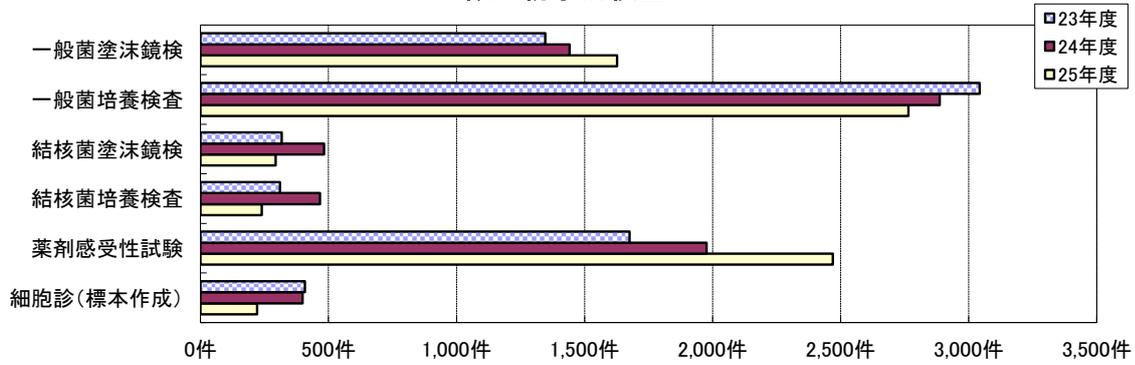
委託



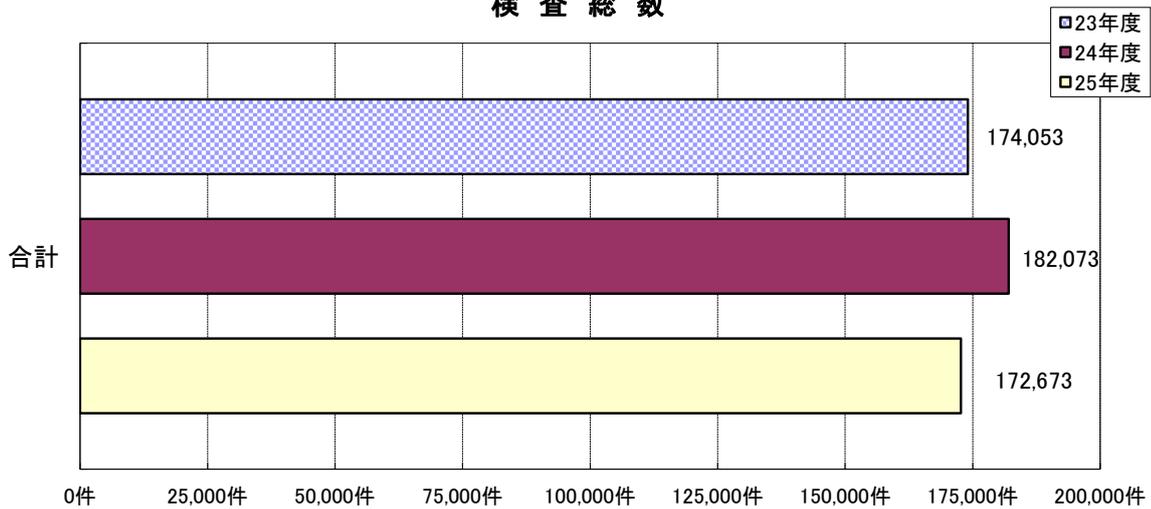
生理学的検査



微生物学的検査



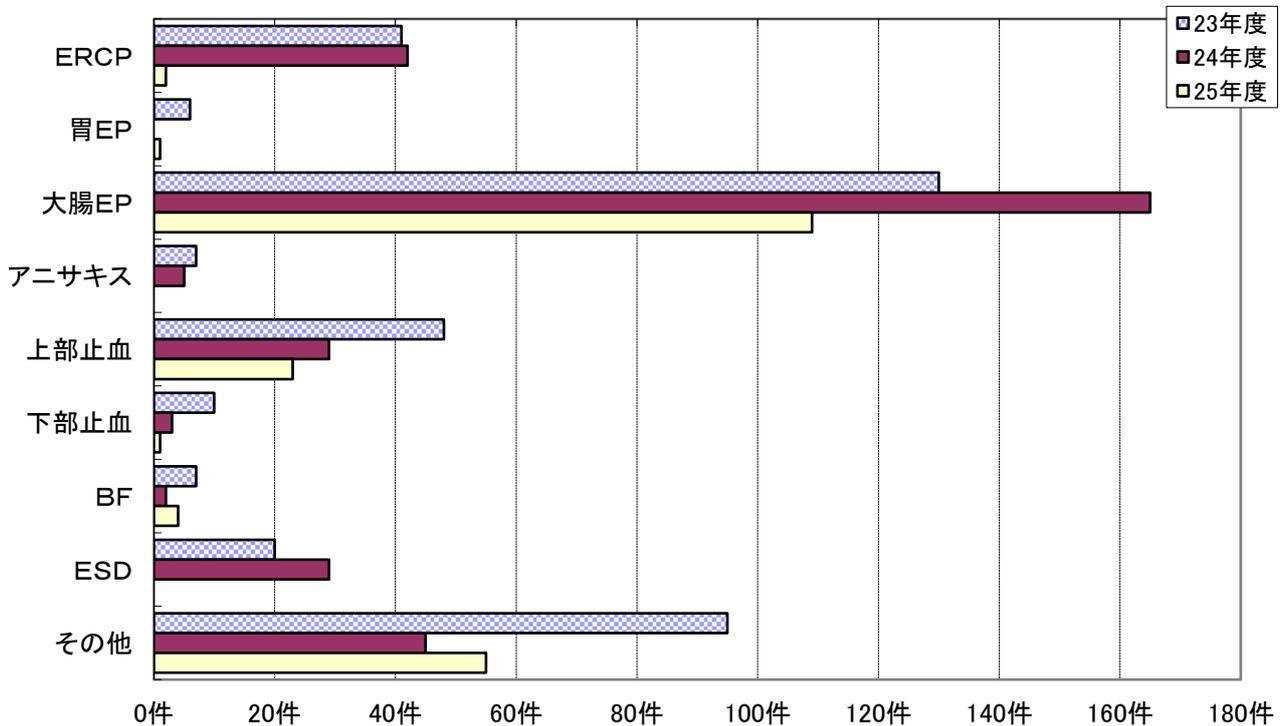
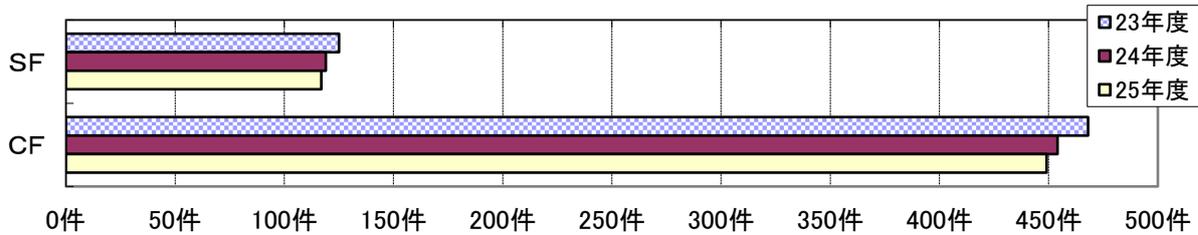
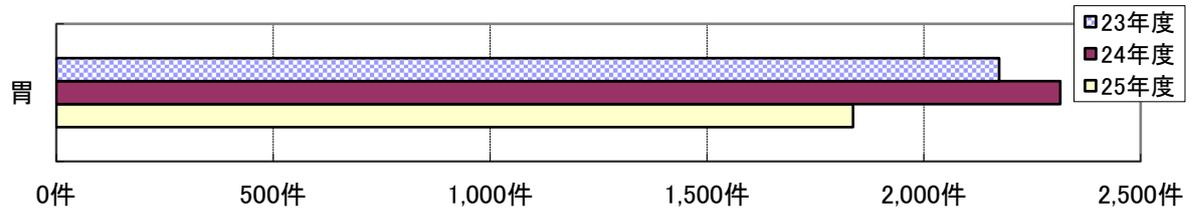
検査総数



1 1. 内視鏡検査の状況

(単位：件)

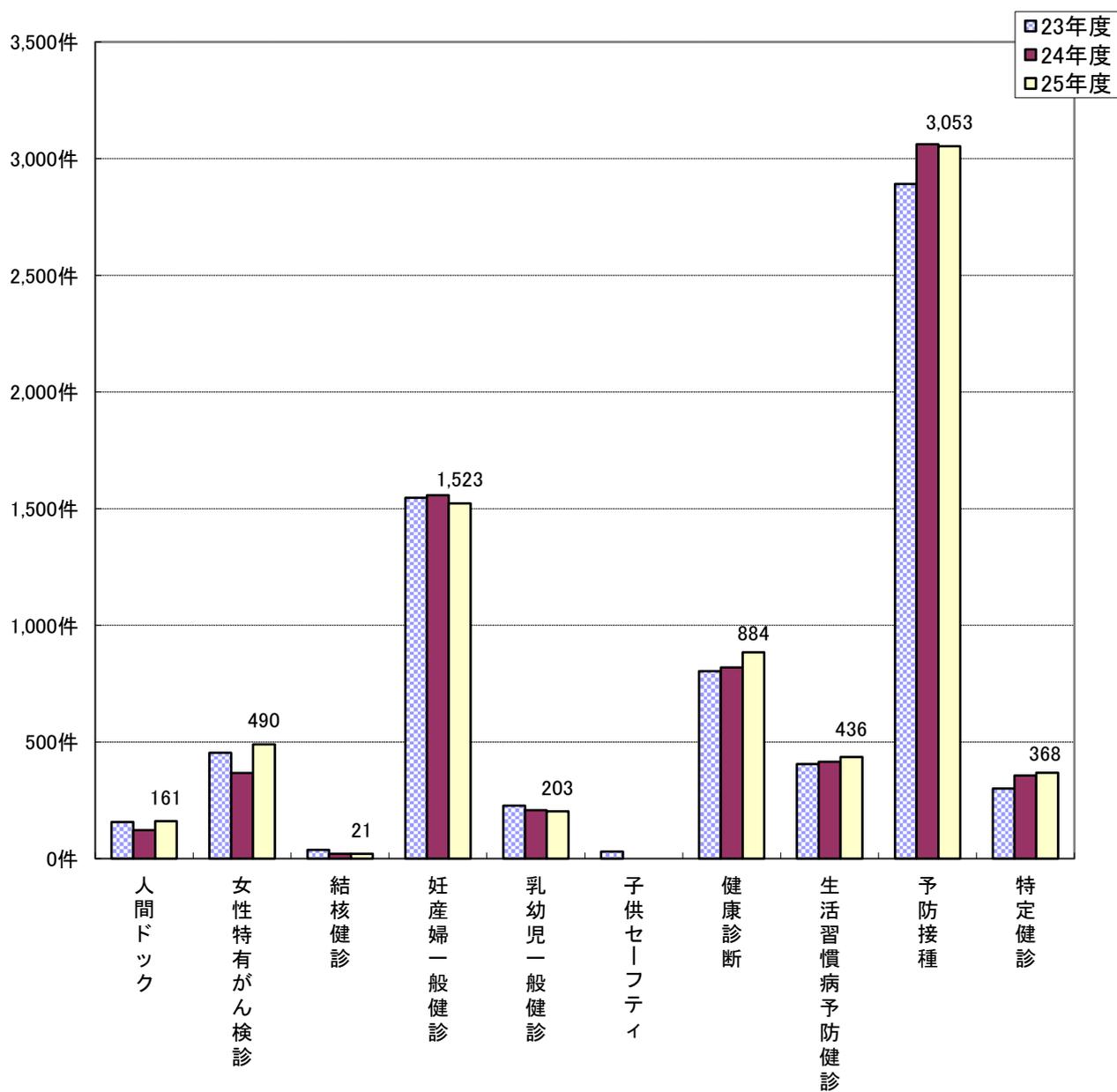
区 分	23年度	24年度	25年度
胃	2,174	2,315	1,837
S F	125	119	117
C F	468	454	449
E R C P	41	42	2
胃 E P	6	0	1
大 腸 E P	130	165	109
ア ニ サ キ ス	7	5	0
上 部 止 血	48	29	23
下 部 止 血	10	3	1
B F	7	2	4
E S D	20	29	0
そ の 他	95	45	55
合 計	3,131	3,208	2,598



12. 健診及び人間ドックの状況

(単位：件)

区 分	23年度	24年度	25年度
人 間 ド ッ ク	157	122	161
女性特有がん検診	453	367	490
結 核 健 診	38	21	21
妊 産 婦 一 般 健 診	1,546	1,557	1,523
乳 幼 児 一 般 健 診	227	208	203
子 供 セ ー フ テ ィ	30	0	0
健 康 診 断	804	819	884
生 活 習 慣 病 予 防 健 診	405	415	436
予 防 接 種	2,891	3,062	3,053
特 定 健 診	300	356	368



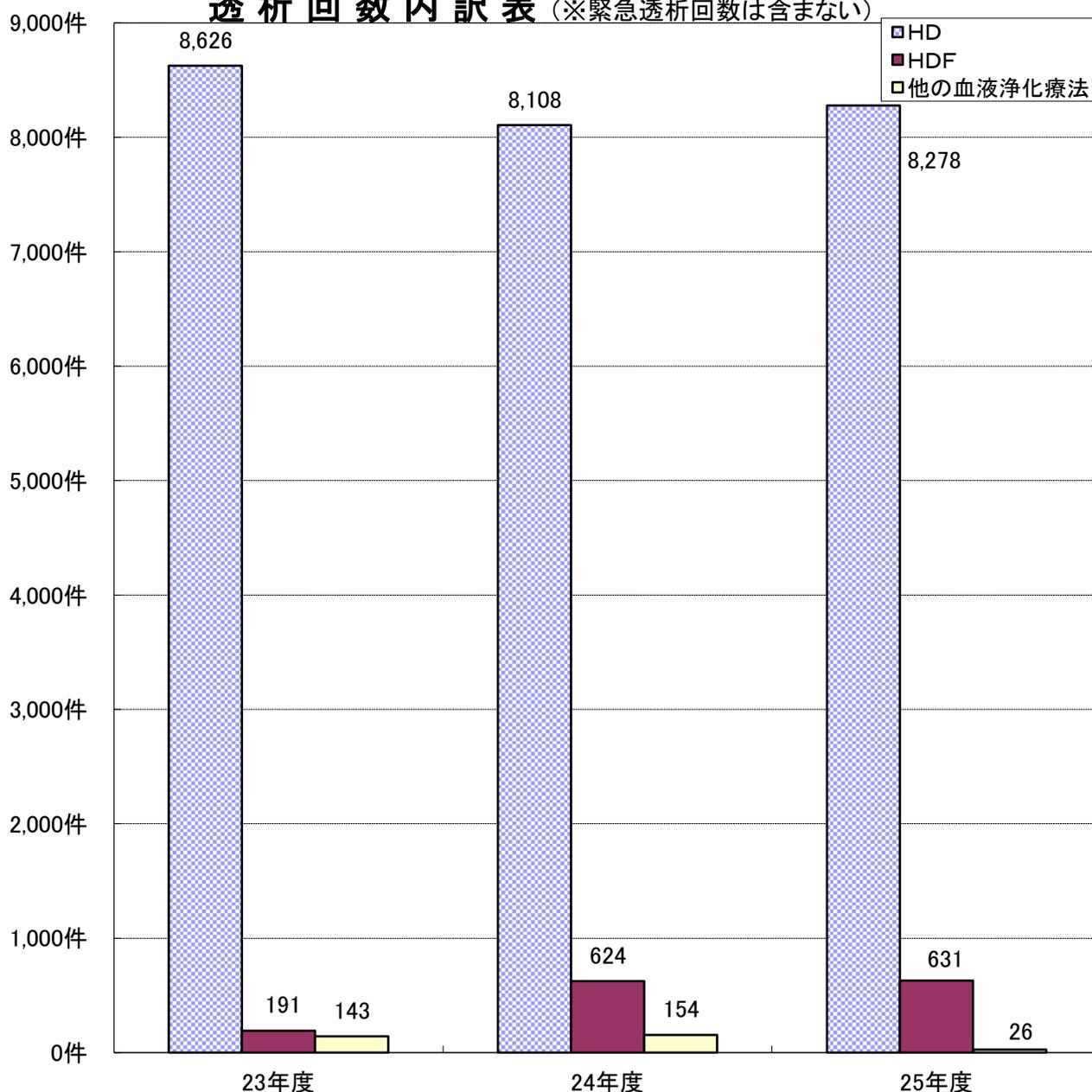
13. 人工透析の状況

(単位：件)

区分	23年度	24年度	25年度
透析患者数	715	707	715
院外透析患者数	6	10	5
透析導入患者数	7	3	12
死亡患者数（離脱・転院）	3(2)	5	4(2)
透析回数	8,964	8,900	8,953
H D	8,626	8,108	8,278
H D F	191	624	631
他の血液浄化療法	143	154	26
緊急透析回数	4	14	16

注：()内数字は外数を示したもの

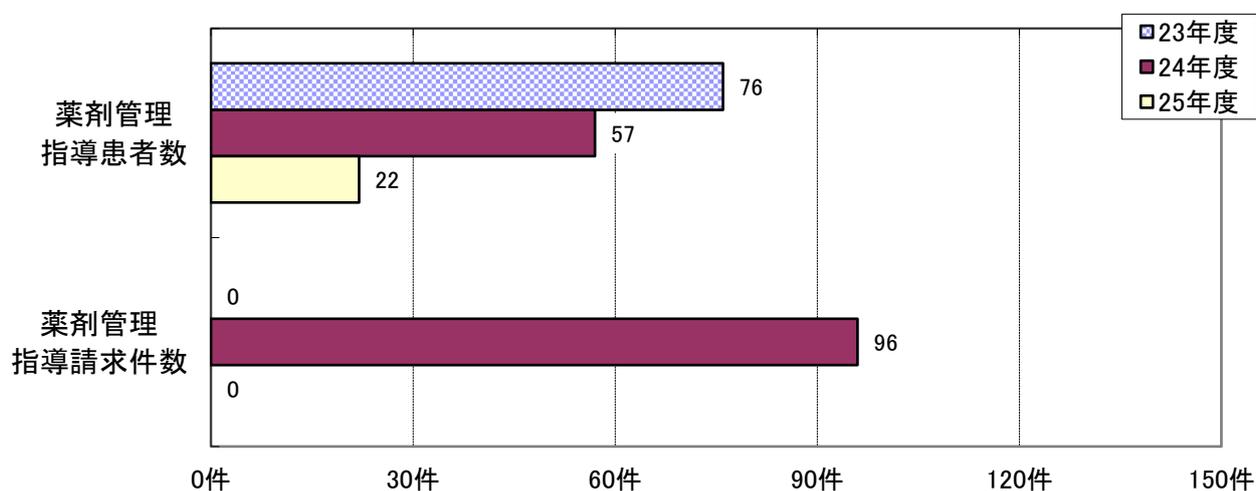
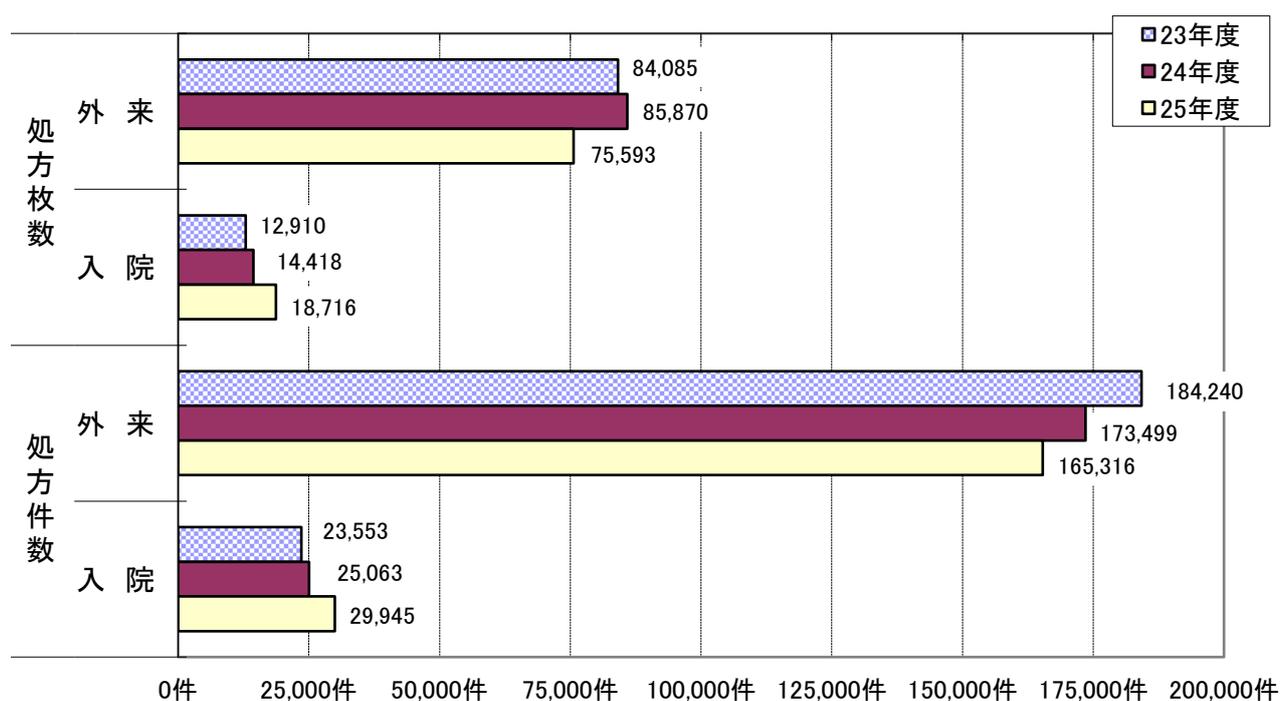
透析回数内訳表（※緊急透析回数は含まない）

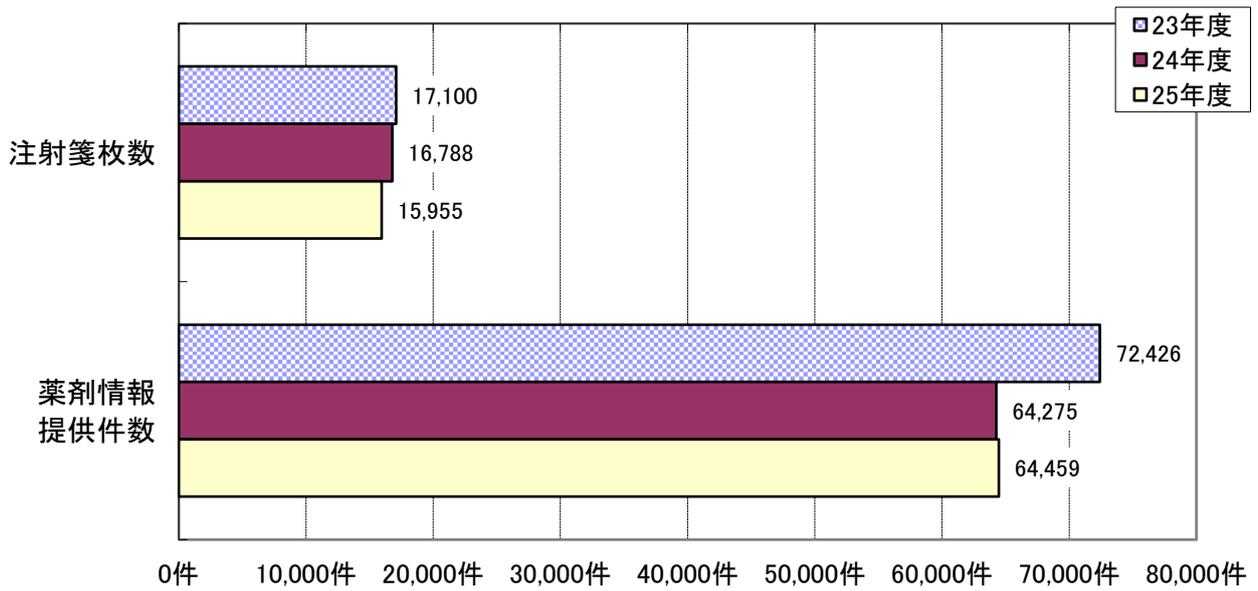


1 4 . 薬剤部の状況

(単位：件)

区 分		23年度	24年度	25年度
処方枚数	外来	84,085	85,870	75,593
	入院	12,910	14,418	18,716
処方件数	外来	184,240	173,499	165,316
	入院	23,553	25,063	29,945
薬剤管理指導患者数		76	57	22
薬剤管理指導請求件数		0	96	0
注射箋枚数		17,100	16,788	15,955
薬剤情報提供件数		72,426	64,275	64,459

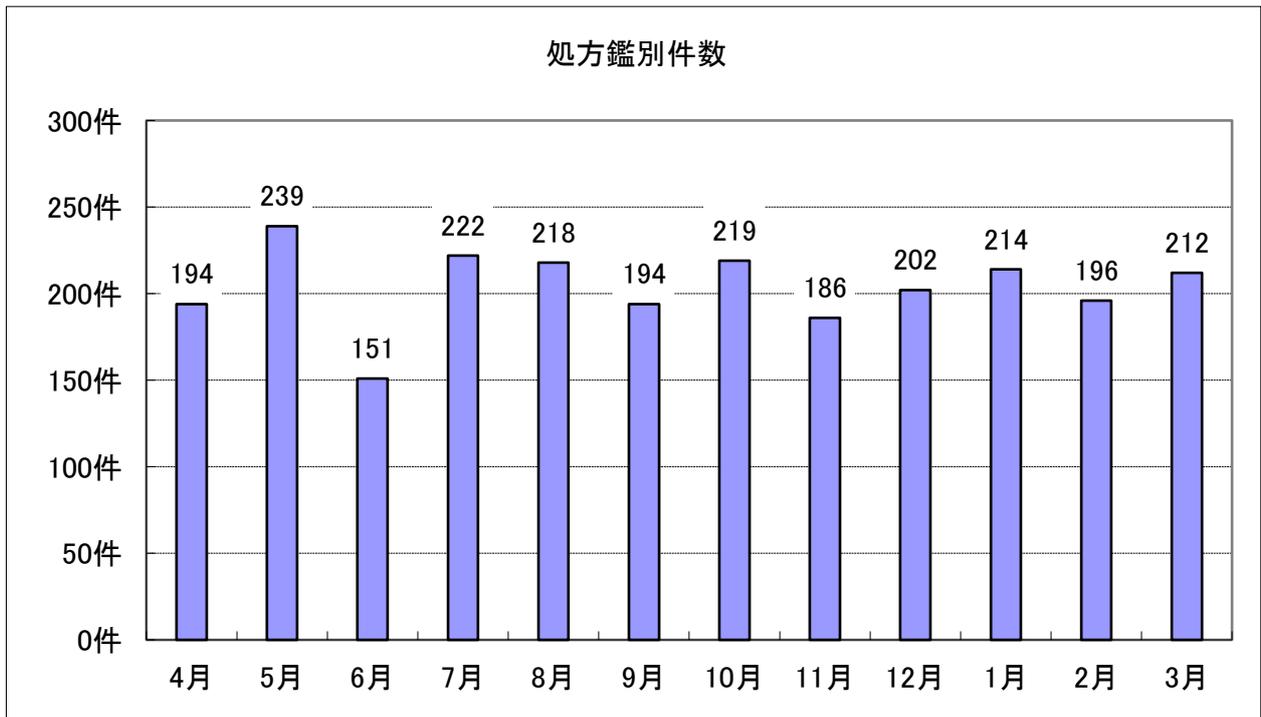




処方鑑別件数

(単位：件)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処方鑑別件数	194	239	151	222	218	194	219	186	202	214	196	212



平成 2 5 年 度

研 究 発 表

珠洲市総合病院

○日本ルーラルナーシング学会 第8回学術集会

『がん化学療法導入時の病棟看護師による患者の援助ニーズ』

発表者:川本 ことえ

『軽度の脳梗塞を発症した後期高齢者の再梗塞予防に向けた生活状況の実態』

発表者:藤瀬 政寛

発表日:平成25年10月13日

場 所:和倉温泉観光会館(七尾市)

○第7回看護実践学会学術集会

『維持透析患者の慢性腎臓病（CKD）期を振り返っての思い』

発表者:松田 真由美

発表日:平成25年9月14日

場 所:和倉温泉観光会館(七尾市)

がん化学療法導入時の病棟看護師による患者の援助ニーズ

○川本ことえ 小原智恵子 宮下侑奈
塩井美枝子 福島美津子

【はじめに】

当院は高齢化率 40%を超える中山間地域にあり、高齢者をはじめ比較的若い世代のがん患者も当院において治療を行っている現状がある。がん化学療法導入時に最初に関わる病棟看護師として、入院から退院後の患者のニーズを踏まえた援助を行う必要性があると考えた。

【目的】

がん化学療法導入時の当初を患者が振り返り、入院中から退院後の患者が看護師に求めるニーズを明確にすることである。

【方法】

対象：過去 1 年以内（平成 23 年～24 年）にがん化学療法を開始し、内服ではなく点滴による治療を開始した 3 名。

事例 1：大腸癌 70 代女性 独居。

事例 2：大腸癌 40 代女性 本人の両親と夫と子供 2 人の 6 人暮らし。

事例 3：胃癌 70 代男性 妻と 2 人暮らし。

実施期間：平成 24 年 9 月～10 月。

調査方法：半構成的インタビューによる面接調査を行い、了解のもと録音し記録した。録音した内容から逐語録を作成し、1 文を 1 データとして、がん化学療法を受けて 1 年以内の患者のニーズを把握し、がん化学療法導入時からの看護師の関わり方を取り出し、内容の類似により質的に分析・分類・統合しまとめた。

倫理的配慮：研究の趣旨を口頭と書面にて説明し珠州市総合病院倫理委員会で承認を得て実施した。

【結果】

3 事例の対象から 1. 患者のニーズに対してのカテゴリは 12 カテゴリ、2. 患者・家族の状況に対してのカテゴリは 6 カテゴリ、3. 他職種との関係は 3 カテゴリが抽出された。

患者のニーズは事例 1、事例 3 で【治療継続への葛藤】があり＜治療継続での葛藤があった＞＜治療中断も考慮していた＞などのサブカテゴリが得られた。事例 3 では治療中断の思いはなく【病気と向き合う意思】で＜治療に前向きでいたい気持ちがあった＞などのサブカテゴリが得られ【生への思い】で＜医学の進歩に期待していた＞＜自らの生き方を考えていた＞などのサブカテゴリが得られた。

一方では【不確実な未来への不安】【副作用への不安】などのカテゴリが抽出され＜将来の見通しがたたない不安を感じていた＞＜副作用に対する不安を感じていた＞などのサブカテゴリが得られた。

【抗がん剤使用前後の思い】では 3 事例ともに＜抗がん剤を体験して想像と現実の違いがあった＞とのサブカテゴリが得られた。

【経済面の捉え方】では<経済的負担を感じていた><治療費以外の経済的負担があった>などのサブカテゴリが得られた。

【日常生活・時間的拘束による制約】では<待ち時間の苦痛を感じていた><日常生活に負担を強いられたいと感じていた>というサブカテゴリが得られた。

患者・家族の状況では【治療そのものによる副作用】【家族との関係】など、3 事例ともに抗がん剤の副作用を自覚があり<家族サポートの上で抗がん剤治療が可能だった>などのサブカテゴリが得られ、家族サポートの重要性を認識していた。事例2のみ<家族としての役割が遂行できない葛藤があった>とのサブカテゴリが得られた。他職種との関係では【医療者との関係】【看護師の関係】で医療者・看護師の説明不足を認識していた。

【周囲との関係】は事例2で<情報を得たりサポートが期待できる状況にあった><治療継続のために自ら情報を得ようとしていた>というサブカテゴリが得られた。

【考察】

抗がん剤治療での副作用は導入時に比べ退院後に多く出現している。このことから、看護師は、治療導入時から退院後の流れを踏まえて、副作用の出現時期や対処方法など具体的に説明して理解を得ることが重要だと考えられる。

また本研究は、3 事例を対象とし、年齢・性別・家族背景など同様ではないが家族のサポートを必要としており看護師は家族へのサポート調整役も担っている。入院時に患者・家族間の調整に対する意識づけが必要であり家族全体を捉えたアセスメント能力の向上が重要であると考えられる。対象者は医療者に対し治療についての説明不足を感じている。がんを告知された、患者・家族は心理的衝撃をうける一方で、今後の治療についての意思決定を迫られることとなる。看護師は、心理的衝撃を受けながら、治療の説明をされている患者・家族の心理状況を理解した上で、その都度、具体的に医師からの説明を補助していく必要がある。患者が質の高い療養生活を送れるために他職種が連携・協働していくことが必要だと考えられる。

軽度の脳梗塞を発症した後期高齢者の再梗塞予防に向けた生活状況の実態

○藤瀬 政寛 鍛冶 かつみ
梅田 久美子 羽根 まどか

【はじめに】

A市は人口16,700人弱、高齢者割合40.6%の過疎地であり、軽度の脳梗塞で入院する独居や夫婦2人暮らしの後期高齢者がいる。このような患者が再梗塞により生活機能を落とした場合、それまでの生活を続けることは困難となる。再梗塞予防の指導は入院時に行っているが、退院後の状況を把握しておらず、その効果は十分に評価できていない。

【研究目的】

軽度の脳梗塞を発症した後期高齢者の退院後の生活状況について実態を明らかにし、看護師による再梗塞予防に向けた退院指導のあり方を検討する。

【研究方法】

対 象：A市在住で、入院時に後期高齢者であり、自宅に退院した、軽度の脳梗塞患者3名。

事 例 A：82歳男性 妻と2人暮らし。

事 例 B：83歳男性 妻と2人暮らし。

事 例 C：81歳女性 独居。

データ収集期間：2012年8月～9月。

実 施 方 法：対象者に対し、半構成的質問法による面接を行い、インタビュー内容はレコーダーに録音して逐語録を作成し、1文を1データとして、その意味内容の類似性に基づき、サブカテゴリ・カテゴリ化を行い分類した。そして、文中の中心的意味を精読し、軽度の脳梗塞を発症した後期高齢者の生活の変化と、その要因を示す内容を抽出して質的に分析した。

倫 理 的 配 慮：珠洲市総合病院倫理審査委員会にて承認を得て実施した。

【結果】

【医療者の対応】、【患者の行動変容】、【現在の生活状況】、【健康管理の状況】、【脳梗塞がもたらしたのもの】というカテゴリが抽出された。

【医療者の対応】では、〈かかりつけ医からの生活指導〉、〈入院中の医療者からの生活指導〉などのサブカテゴリが得られた。患者は入院中に再発予防の指導を受けており、事例Aは入院前から、かかりつけ医の減塩指導を受けていた。

【患者の行動変容】では、〈入院中の指導を実施できていない退院後の患者の生活〉、〈退院後の患者の生活の変化〉などのサブカテゴリが得られた。患者は入院中の指導により、退院後の生活を変化させていたが、事例Aは減塩が出来ていなかった。また事例Bは、指導以外の運動も行うようになった。

【現在の生活状況】では、〈周囲の人から患者への支援と良好な人間関係〉、〈この地域で生活を続けたいという患者の希望〉などのサブカテゴリが得られた。患者は地域の人々に支えられながら生活し、事例Cはこの生活を続けたいと希望していた。

【健康管理の状況】では〈患者は自分が高血圧だと認識〉、〈患者は食生活の変化は困難と認識〉、〈健康維持に対する患者の意欲と動機〉などのサブカテゴリが得られた。事例Bでは他者に迷惑をかけたくないなどの思いが、健康維持への動機となっていた。また事例Aでは、高血圧と塩分の関係について理解し、自分は高血圧という自覚もあったが、減塩は困難と認識していた。

【脳梗塞がもたらしたのもの】では〈脳梗塞発症時の患者の体験〉、〈脳梗塞発症要因についての患者の認識〉、〈患者の再発への不安〉、〈患者の再発予防への強い意志〉などのサブカテゴリが得ら

れた。患者は脳梗塞を体験し、再梗塞への不安を持ち、再発予防の強い意志を持っていた。また事例 A は、自身の脳梗塞発症要因についての認識が不十分であった。

【考察】

行動変容の要因：

脳梗塞を体験したことで、再梗塞への不安を感じ、コンプライアンスが高まり、指導を受け入れて行動変容に至ったと考えられる。また事例 B は、発症時の体験から、自分に必要な自己管理行動を、自分で選択し実施していくという、アドヒアランスも高まったことで、自発的な行動変容に至ったと考えられる。脳梗塞症状の体験が記憶にしっかりと残り、コンプライアンス・アドヒアランスが高まっている入院早期から、再梗塞予防の指導を行う必要がある。健康維持への意欲も、行動変容の要因と考えられる。事例 B の他者に迷惑をかけたくないの思い、事例 C の現在の生活を続けたいという思いが、健康維持への動機となり、再梗塞予防のための行動変容に至ったと考えられる。

行動変容に至らなかった要因：

事例 A では、自分が高血圧だと自覚し、塩分過多が高血圧の原因と認識しながら、減塩指導は実施できていなかった。脳梗塞の発症要因については思い当たることなく、高血圧が危険因子との認識が不十分で、行動変容に至らなかったと考えられる。患者が自身の生活を振り返り、脳梗塞の危険因子を認識し、予防法を正しく理解できるよう、具体的に、根拠を示しながら、指導していく必要がある。

維持透析患者の慢性腎臓病（CKD）期を振り返っての思い

○松田真由美 岡田寿美子
柳谷圭子 田中優子

【目的】

A 病院維持透析中で慢性腎臓病（Chronic Kidney Disease;CKD）期に A 病院通院歴のある患者が、CKD 期において医療者の関わりや病気をどのように捉え生活してきたのかを振り返り、現在はどのような思いがあるかを明らかにした。また、その結果をふまえ、今後 A 病院での CKD1～5 期における透析看護師としての関わりについて検討を行った。

【方法】

研究デザイン：質的記述的研究デザイン

データ収集期間：2012 年 9 月～10 月

対象：A 病院維持透析患者で A 病院を通院していて透析導入となった患者で、本研究に同意を得た者 5 名。

データ収集方法：半構成的インタビューにより面接調査を実施した。面接時間は 50 分程度とし、患者の都合のいい日にプライバシーの確保できる個室で実施した。分析は対象者毎に行い、面接の逐語録を熟読し記述されたデータをしかるべき長さに切り分けそれにコードを付けた。コードを共通点ごとに分類しカテゴリを生成した。この作業を対象者ごとに行い全体としてまとめた。

倫理的配慮：研究計画書の段階で所属施設の倫理委員会の承諾を受け、対象者には研究の趣旨を口頭と書面で説明した。インタビューは録音すること、自由参加であり途中で中断してもよいこと、データは結果がまとまった時点で破棄することを約束し参加者の署名同意を得た。

【結果】

対象者の 5 事例すべてが男性であった（表 1 参照）。

維持透析患者の慢性腎臓病（CKD）期を振り返っての思いを分析した結果、5 名から 309 のコードを得、18 サブカテゴリ、5 カテゴリが抽出された（表 2 参照）。

表 1. 対象者の概要

事例	年齢	性別	A 病院初診時の CKD 病期	透析歴
A	40 代	男性	ステージ G2	1 年
B	70 代	男性	ステージ G3b	6 年
C	50 代	男性	ステージ G4	6 年
D	70 代	男性	ステージ G3b	4 年
E	60 代	男性	ステージ G2	1 年

表 2. 維持透析患者が CKD 期を振り返っての思い

カテゴリー	サブカテゴリ	記述例
《腎臓病の発見が遅れた》	<健診を受けていなくて腎臓病の発見が遅れた> <放置して腎臓病の発見が遅れた>	・「蛋白下りとするからって全然それがどうなるとは知らなかった。誰も知らんと思うけど」
《腎臓病について理解できていなかった》	<腎臓病は仕方がないと諦めていた> <進行は遅いと捉え危機感はなかった> <自覚症状がない間は、治療はしっかり受けていると安心していた> <腎臓病について十分な知識がなかった> <維持透析について詳しい知識がなかった> <透析導入間近となり初めて危機感を感じた> <透析導入を覚悟した> <腎臓内科専門医に診て欲しかった> <A 病院での看護師の関わりはなかった>	・「クレアチニンの数字がなかなか上がらないので軽い気持ちだった」 ・「症状ないし、どこか都合悪いならば、聞いて、自分で考えにやだめやけど・・・」 ・「看護師ってなんも言わんもの」
《自己管理できず透析導入を早めた》	<食事療法の必要性が十分理解できず食事療法が継続できなかった> <指示を守らず過酷な労働を続けた>	・「最初は減塩醤油を使ったけど、単に横着で。嫁さんって料理得意じゃなかった、わざわざ作る時間ってが・・・仕事もしとるし」・「からだの方が大事やし」って言われたけど、「はいはい」って言って。「お前、じゃあお金くれるか？」って思ってそのままアルバイトに行っていた。
《自己管理に気を付け透析導入を遅らせることができた》	<食事指導内容が理解でき食事療法していた> <自己管理を頑張ったので透析導入を遅らせた>	・「自分で管理しようと思った。(診察が終って)データを栄養士さんの所に持って行っては、何回か聞きに行った」・「I g A 腎症といわれてから 6 年から 7 年で透析になった、心残りないよね。」
《医療者に期待している》	<導入を遅らせることが出来たかもしれない> <自分の経験を生かしたい>	・「透析現場を見せられて、何度も言われていれば」・「早くから言って聞かしてくれれば」・「分かるように、パンフレットみたいなのを漫画的に書いたやつ、解かり易いと思う。

維持透析患者が CKD 期を振り返っての思いには、3 名が《腎臓病の発見が遅れた》、全対象者が《腎臓病について理解できていなかった》と振り返り、気づいた思いがあった。また、自己管理を頑張れたか否かで思いは相反し、3 名は《自己管理できず透析導入を早めた》と後悔し、2 名は《自己管理に気を付け透析導入を遅らせることができた》との思いがあった。そして、全対象者がそれらの対策を《医療者に期待している》思いがあった。

【考察】

健康診断については、定期的受診の中断や、健康診断後の的確な行動がとれていないことは、健康診断の必要性が理解できておらず、腎臓病についての知識がないことが原因であると考えられる。中村¹⁾は、「看護師の立場からも健診未受診者への働きが必要である。」と述べており、透析看護師として、腎臓病が健康診断で容易に早期発見でき、どのような病気の存在を示しているか、放置するとどのような結果に至るかを A 市広報誌に載せたり、パンフレットを外来に設置するなどの普及・啓蒙していく必要がある。

自己管理については、<指示を守らず過酷な労働を続けた>は、年齢的に一家の大黒柱としての役割と腎臓病患者としての役割との間に葛藤を生じていたと考える。患者を生活者として捉えることが重要であり、話を傾聴し何が問題かを知り、必要としている知識や、具体的な方法を提供し、セルフマネジメントを支援していく関わりが必要である。《自己管理に気を付け透析導入を遅らせることができた》では、何度か繰り返し栄養士が関わりを持ったことで、日常生活にあった食事療法の活用方法を発見し出したと見え、今後の関わりを考える中で具体的な手掛かりとなった。

全対象者が腎臓病の病状理解が不十分であり、十分な治療と自己管理のもと透析導入を回避、遅延できること、自分がどの CKD 病期ステージであるか、風邪などで急激な病状悪化の可能性があることを初期の段階で説明することが重要と考える。結果からは、A 病院看護師の指導で患者の記憶に残ったものはなく、今後は患者の理解度を把握し、医師の説明を補足できる透析看護師の効果的な関わりが必要である。

近年、全国的に CKD 対策が取り組まれている中、透析看護師としての使命感を感じながらも関わりを持てるのは晩期 CKD5 段階である現状であり、研究結果から維持透析患者が CKD 期を振り返って早期介入を望んでいた結果を深く受け止め、介入に向けての早期対策が必要である。今後は、透析看護師としての専門性を高めると共に A 病院内システム作りに向けて検討し、他職種と連携しながら効果的な関わりをしていく必要がある。また、A 病院は、A 市において唯一の透析施設であるが、腎臓内科専門医が不在である医療状況がある。患者は腎臓内科専門医に期待しており、的確な診断と治療方針を決定してくれることを望んでいることが伺える。透析看護師としても以前から腎臓内科専門医の専任を望んでおり今後も要望していきたいと考えている。

【引用文献】

- 1) 中村光江:慢性腎臓病看護の動向に関する文献的考察,日本赤十字九州国際大学 IRR, 第 8 号, p43-60, 2010 年.

病院年報 平成25年度版
発行／珠洲市総合病院
〒927-1213 石川県珠洲市野々江町二部1番地1
TEL 0768-82-1181(代表) FAX 0768-82-1191
E-mail byouin@city.suzu.lg.jp
発行日／平成26年7月
制作担当／事務局